

【参考資料】第68回研究大会のまとめと反省

(研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと	II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項
III 大会前の諸準備、諸会合について 会場校の決定、地区研、事前研、資料など	IV 大会当日の運営や内容について 日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど
V 各研究部独自の意見や要望	○…成果 ●…改善点及び課題 △…提案

<国語部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

(1) 研究授業等

- 導入部分で、本時に働かせていく見方・考え方を示すことで、生徒が見通しをもつことができ、意欲的に学習課題に取り組んでいた。
 - 生徒に応じた学習用具(タブレットやワークシート)が揃えられていたり、教員のこまめな声掛けがあったりしたおかげで、全ての生徒が課題解決に取り組もうとする姿勢が見られた。
 - 叙述をもとに言動の意味を考えるとという方法が示されていたので、読み取りが苦手な生徒が学習方略を知ることができていた。
 - 叙述をもとに心情を考える際、どの叙述に注目しているかを全体で確認してから、個人、共有の時間を設けていたことで、読み取りに苦手意識をもつ生徒も見通しがもてて、じっくり考えることができていた。
- (2) 授業力向上のためのアドバイザー講義
- ・演題「国語科における『主体的に学習に取り組む態度』を考える」
 - ・講師：富山大学名誉教授 米田 猛 先生
 - 評価の際にいつも悩んでいる「主体的に学習に取り組む態度」について、詳しく分かりやすく教えていただけて、今後の授業づくりの見通しがもてた。

【富山地区】

(1) 研究授業等

- 2年生の授業では、本時に至るまでのきめ細かな積み重ねが感じられ、生徒が意見文を書きやすいよう型が示されたワークシートも効果的だった。また、古典を現代に引き寄せて考えを深めさせる方法が、古典を学ぶ意義につながっていた。
- 3年生の授業では、生徒一人一人が今何をすべきかを理解し、主体的に学んでいた。クロムブックを使うことで、他の生徒からコメントを同時に得られるほか、線を引いたり色を変えたりすることで指摘された部分に分かりやすくなり、加筆修正の過程が残されるよさがあった。

【高岡地区】

(1) 研究授業等

- 物語の「批評」という難しい活動を取り入れた授業を参観でき、今後の授業づくりの参考になった。
- 構造的な板書という工夫は達成されており、そのための意図的指名もうまく機能していた。
- 研究発表は前回から3市の代表者が短時間で発表する形式になったが、それぞれ異なった内容を聞くことができ、ためになった。
- 他市の実践を聞くことができてよかった。デジタル採点等、今どきの話題もあり、大変好評であった。
- 発表内容が具体的でよかった。特に、評価についての内容は、指導助言の内容が加わることでより理解が深まった。
- グループ協議では、様々な年代の先生方と意見交換ができ有意義だった。

【砺波地区】

(1) 研究授業等

- 全体を通してICT(オクリンクプラス)を活用することによって、生徒が他の生徒の考えを共有するだけでなく、提示された根拠となる事実の引用元を確認することも容易になっていた。
 - ピラミッドストラクチャーを活用し、考えと事実となる根拠、その間を繋ぐ考え(解釈)を分けて考えさせており、効果的な思考ツールであった。
 - 教師が活動の前に学び方の指針を示し、学び方を迷っている生徒への適切なアドバイスをすることで、学ぶ方法の自己決定の機会が設けられていた。
- (2) 授業力向上のためのアドバイザー講義(講義内容は概ね新川地区と同じ)

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、主体的であることの4つの具体を教えてください、今後に活かしていきたい。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

(1) 研究授業等

- 「心情」と「人柄」の区別があいまいになっている生徒もいた。「心情」と「人柄」の違いについて補足する機会があってもよかった。
- 父親の心情についての意見を、共有したり深めたりする時間がとれなかった。
- 終末の振り返りの際に、改めて今回学んだものの見方・考え方について押さえる場面があるとよかった。
- 登場人物の「言動」の意味から「心情」を捉え、人柄につなげるよう、型が準備されていたが、型があることでかえって難しくなっていた。

(2) 授業力向上のためのアドバイザー講義

- △アドバイザー講義では、さまざまな視点の国語科教育のあり方を聞かせていただきたいので、他の先生をお招きすることも検討していただきたい。

【富山地区】

(1) 研究授業等

- 教材を選ぶ際、「資質能力を伸ばすため」という視点を持ち、その教材でそれらをどのように育成するかを考えていく必要がある。また、教師が概ね満足できる生徒の姿を考えておき、生徒の学習意欲の向上につながる評価を行っていくことも大切である。
- 話し合う時間が少なく、文章に生かせるまでの助言が得られなかったり伝えきれなかったりする場面もみられた。生徒が自分の文章とじっくり向き合うために、読み合う時間や助言やその説明の時間を十分確保することが必要である。

【高岡地区】

(1) 研究授業等

- 授業者が例として掲げた批評文が教室前方に貼られていただけだったので、資料として配布があるとありがたい。
- 本時の展開に変更がある場合は、事前に伝えてほしいという指摘があった。オリエンテーションの時間は設けられていないので、司会者を通じて周知するなどの手立てが必要であった。
- 発表者の負担を考えると実践発表は1つでよいとの意見もあり、今後各市で話し合い、検討していく必要がある。
- グループ協議もよいが、授業者と意見・質問のある先生との直接的なやりとりの時間が確保されたい。

【砺波地区】

(1) 研究授業等

- 互いの意見を評価するチェックシートの観点がやや多く、また評価の基準が十分に理解できないまま書き込んでいる生徒がいた。
- 題材の設定は、生徒自身のアンケートを基に行っていたが、題材を設定する際は、それを書くことでどのように生徒自身の生活に影響するか、吟味する必要がある。
- 意見文を発表する場の工夫があればよかった。「誰を相手に、何のため（目的）に」を明確にして書き始めれば、更に意欲的に活動できたと思われる。
- アドバイザーの講演時間を確保するために、授業について協議する時間が短くなった。授業者の先生はせっかくご苦労されたのに、フィードバックが少ないのは申し訳なく感じた。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

- (1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)
4 〇負担軽減のため、データでの資料の事前配付は今後も続けてほしい。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

- (1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【新川地区】

- 1 〇オリエンテーションに関しては、省略されても特に問題はなく、時間にも余裕がもてたのでよかった。
- 4 〇今年度の部会協議では、各班の発表や模造紙等のまとめがなく、限られた時間でもじっくり話し合いができた。会場準備等の負担を考えると今回の形が望ましい。
- 5 △講演を4年に1度くらいにし、授業の年と授業力向上の講演を聴く年に分けてみてはどうか(下新川)。
△アドバイザー講義がない年度は、部会協議①だけでよいのではないかと(魚津・下新川)。

〔富山地区〕 特になし

〔高岡地区〕

- 4 ○部会協議①のグループ分けでは、年齢やキャリアがなるべく偏らないように工夫されていた。
△協議会で付箋が配られていたが、個人でメモしたことを付箋に書き直し、ホワイトボードに付箋を貼りながらまとめ、感想用紙に付箋を戻して提出するのは手間がかかった。ホワイトボードか付箋かどちらかでよいのではないか。

〔砺波地区〕

- 1 ●授業者と部会責任者の所属地区はそろえた方がよい。
4 ●部会協議の流れについて、運営委員内では夏の部会で話し合っていたが、一般会員に共有するのが当日になってしまった。事前に運営委員で確認したうえで、周知すればよかった。

V 各研究部会独自の意見や要望

△授業者の選定に苦慮している。氷見市は5校、部員数は12である(校長1名、教頭2名含む)。年齢等考慮すると、市の研究授業の運営も厳しい状況である。各市の部員数に応じて、発表を含め授業の機会を均等にしたいほうが、西部地区全体の授業力向上につながるのではないか。

<社会部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

〔新川地区〕

- 他の先生の授業を参観する経験も少なくなってきた中で、このような機会は重要だと思う。授業者の負担が大きくならないように気を付けて行っていけばよい。
- 小グループでの話し合いの時間があり、部員全員が部会協議に参加できたという実感があった。
- 自己調整についての情報交換が参考になった。
- 人数が多く集まるので、オンライン配信で授業を見られるように配慮していただいたのがよかった。

〔富山地区〕

- <地理>
- KJ法を利用することで、既習事項である地理的条件の確認や生徒相互の情報共有が進めやすくなり、理解を深めることができていた。その際に、生徒の手持ちの資料を活用して資料を深く読み取ることで、根拠に基づいた表現につながった。

<歴史>

- 既習事項を確認しながら、小グループで鎌倉幕府の滅亡の原因の予想を立て、さらに教師が用意した資料を活用して考えを深めようとしていた。その際、スプレッドシート等、ICTを効果的に活用しながら意見を交換していた。

<共通>

- どちらの授業も既習事項を基に、生徒が資料を根拠として自分の意見をもって話し合うことができた授業であった。

<授業力向上のためのアドバイザー講義>

- 視学官である講師から、授業者の悩みに寄り添いながら助言していただいた。「見方・考え方を働かせることのできる課題(問い)」や「単元設計」の大切さ等、学習指導要領の記載内容に基づく説明を通して、授業改善の視点について学べた。

〔高岡地区〕

- 毎時間の学習課題が、単元を貫く課題の解決に繋がっていた。
- ICT機器やホワイトボード等を効果的に活用しており、生徒の思考の過程や、既習内容が視覚的に捉えやすかった。
- 学習指導要領で求められている、育成すべき生徒の資質・能力を確実に養っていくためには、指導計画の作成が重要であると再認識した。指導計画は作成して終わりではなく、PDCAサイクルを意識して、適宜内容の改善を行う必要がある。
- 百姓や武士、朝廷等様々な立場に立って、生徒が江戸幕府の政策を評価した研究授業は、幕府の終わりについて深く学ぶために有効だったと思う。
- 単元構想を組み、毎時間まとめを積み重ねていくことで、単元のゴールを毎時間意識して学習を進めることができた。江戸時代の農民や武士等、それぞれの立場から幕府滅亡の理由を考えることで、全員が自分の立場から考えるよりも様々な意見が見られ面白かった。

〔砺波地区〕

- 研究授業は、3年生公民分野の地方自治の単元で、小矢部市が重点的に取り組むべき政策のランキングをする活動を通じ、小矢部市の抱える課題や解決方法について多面的・多角的に考察する実践であった。
- 小矢部市の総合計画等、豊富な資料を生徒に提示するだけでなく、単元を通じて小矢部市役所からゲストティーチャーを何度も招き、講演を聞いたり対話をしたりする双方向の関わりを継続させる

ことで、生徒は市政の実際にふれることができ、学習意欲の向上につながった。

- 毎年継続して指導案に知識の構造図を載せ、教師が単元を貫く問いを設定して計画的に指導できている。また、毎時間の生徒の学びの振り返りや課題に対するまとめを行うことで、生徒の学びが連続したものになるような指導の工夫も行われていた。
- 部会協議②では、部員間で公民分野の単元構想（単元を貫く問いとまとめ、毎時間の活動や評価）を考える活動を行った。部会員で話し合いながら単元構想をすることで、改めてその重要性を実感するとともに、互いの実践から学び合うよい機会となった。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

〔新川地区〕

- 資料の難しさもあり、アフリカ（ナイジェリア）の課題や現状に細かくフォーカスしすぎており本来のアフリカを大枠でとらえることが難しくなっている印象を受けた。討論の方法についても検討の余地がある。
- 今後は部員が誰でも明日から実践できるような肩の力を抜いた授業でもよいのではないかと思う。
- 2年続けて地理的分野だった。様々な分野の実践が行われるとよい。
- 研究大会での内容を各校で持ち帰り、授業に還元することができないと意味がないと思う。すなわち、研究授業では再現性（教師が誰でもできる、生徒の実態が異なっても実践できる、単元計画に時間的無理がない等）がないと、机上の空論で止まってしまうと思う。
- 部会協議②の内容をどのようなものにしたらよいか考える必要がある。指導案についての検討会でもよいと思う。例えば、指導案を持ち寄り、授業について考える時間等が考えられる。

〔富山地区〕

<地理>

- 生徒の手持ち資料だけでは、新たな疑問の解決に対する情報の入手は難しいようだったので、インターネット等で資料を集めることがあってもよかった。
- K J法はフィグジャムを利用することで時間短縮や情報共有が図られるので、ICTの効果的な活用等、班活動の仕方に工夫が必要である。

<歴史>

- 一人一台端末を使用した作業やそれを基にした班ごとの意見交換等、ICTを活用する場面が多かったが、教室全体で意見交換を行うなど、考えを深める場面の設定を工夫する必要がある。

<共通>

- 黒板に作成した模造紙を掲示したり生徒の意見を書き記したりするなど、学習の過程や成果が位置付けられていなかったため、発表した内容や学習内容を振り返ることができるように、板書等を工夫する必要がある。

〔高岡地区〕

- 生徒の発表に根拠をもたせるための資料の準備が必要であると感じた。アドバイザーの藤野先生が指摘されたような、百姓が困っていたことが分かるような資料を、それぞれの立場で用意してあれば説得力が生まれたと思う。今後も生徒が自ら学習の仕方を決め、生徒主体で学習を進めていく方法を模索していきたい。
- ICTを活用した対話的な授業を模索していく必要がある。

〔砺波地区〕

- 本時の学習内容とゲストティーチャーの関わり方について検証が必要だった。市政を担当する市役所の方が生徒の考えをどのように評価しておられるのか聞く場を設ける展開であった方が、生徒の学びがより充実したのではないかと。
- 政策の優先度を考える際には予算を無視するわけはいかない。予算を決めるのは市議会、つまり優先度を定めるのは市役所ではなく市議会であることを確認すべきであった。
- 今回意図的にICTは利用しなかったが、会員からは、生徒の意見の発表やその交流で活用すべきという意見が特に若手教諭から出た。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

（1 会場都市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付）

〔新川地区〕 特になし

〔富山地区〕 特になし

〔高岡地区〕

2 △部会費を直接渡す必要があるのは理解できるが、内容的にはオンライン開催で十分ではないかと思う。1時間近くかけ会場にきて全体会は20分程度の打ち合わせで終了した。

4 ○指導案集等、すべてメール送信でよいと思う。

〔砺波地区〕 特になし

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【新川地区】

- 1 △昼食を食べる時間がない。部会協議②をやめ、6限を授業としてはどうか。
△勤務時間は16:30までだが、その時間前に終わることはできないか。
- 2 △自校での還元という目的で、研究授業で利用した生徒用資料を編集可能な形(word形式)で配布してほしい。事後でも構わない。

【富山地区】

- 5 ●アドバイザーによる「授業力向上のための講義」について、講義の内容量に対して時間が短く感じた。限られた時間の中で、いかに研究授業と部会協議を両立させていくかが課題である。

【高岡地区】

- 2 ○授業会場が体育館ということもあり、スペースが広くて見やすく良かったという意見があった。
一方で生徒の声が聞き取りづらかったという意見もあった。
○授業参観シートがあったため、自分の考えをまとめやすかった。
- 4 ●アドバイザーの講義があったため、研究授業について意見を深める時間が短かったという意見が多く見られた。
- 5 ○近年米田先生に来ていただくことが続いていたため、久しぶりに他の方のお話を聞くことができてよかった。今後もいろいろな方に、いろいろな視点でお話をしていただけると勉強になりよいと思う。

【砺波地区】

- 1 △会場校の普段の日程に合わせ、授業開始を13:25とした。授業前のオリエンテーションを実施していないが、到着がギリギリになった方が何名か見られた。16:30に部会を終了するためには、発想を変え、授業力向上のためのアドバイザー講義がない年は、研究授業とその協議に限定してもよいかもしれない。
△授業力向上アドバイザーによる講演がない場合の部会協議②のもち方について、他郡市の実践を参考にしたい。

V 各研究部会独自の意見や要望 特になし

<数学部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- 研究主題に沿った教師の指導改善、生徒の学習改善につなげるための振り返りシートの活用を提案できた。
- デジタルとアナログの両方を取り入れた授業を同時展開することで、双方の有効性を比較しながら研修をすることができた。
- 振り返りシートを紙とタブレット端末の2種類の方法で蓄積してきたことは、それぞれの利点と欠点を比較する機会になった。
- 2つの授業を同時に公開したことで、展開や手法の比較ができた。
- ロイロノートを用いた復習問題により、教員が生徒の理解度を把握し、授業改善に活用するための機会が設けられていた。意見集約をする上では有効的だと感じた。
- 導入の復習問題がクイズゲームのような形式で、生徒は意欲的に取り組んでいた。
- 授業力向上のための講義では、子どもがより質の高い振り返りを行うための工夫、子どもの興味・関心を引きつけるための考え方など、実例を用いてご教示くださり、大変参考になった。
- 適切な人数でのグループ協議で、意見を出しやすかった。

【富山地区】

- 研究大会が最後の集合研修となることから、研究主題を意識しながら協議会まで行うことができた。研究授業をすると授業における教師の支援に集中しがちだが、「指導と評価の一体化」を目指しているので、常に評価とセットで考えることができた。
- 実験方法の選択が自由であり、生徒の発想も豊かで良い授業だった。実験の数値を使ったので誤差が生じたが、比例と予想できるので、表で示したときにどう説明をするのかがポイントだと思った。
- 教師が誘導的な指導(教え込み)ではなくて生徒の考えを引き出そうとしていた。

【高岡地区】

- 昨年に引き続きワールドカフェ方式のような話し合い活動を採用し、昨年度の反省を生かし、グループ協議の時間を長くしたことで、部員から活発な意見が出された。今年度は付箋は使わなかったが、特に影響はなかった。
- 公開授業の場所を広い教室にしたことは、参観者に見やすく良かった。
- 生徒が課題を自分事として捉えられるような工夫や生徒がこれまでの学習を振り返ることができ

るよう工夫がなされていた。

- ヒントカードの提示や考えの共有にタブレット端末を利用しており、効果的だった。
- 利用の単元では、身近なものを扱うことで自分事として捉えさせることができる。
- 本時の課題だけでなく、単元を貫く課題を生徒に提示することで、生徒の意識も高まっているように感じた。
- 主題との関連にある、生徒自身が見方・考え方を働かせながら問題を解決できるような問題を作成しておられ、授業者の先生の工夫を感じた。

【砺波地区】

- 関数 $y = a x^2$ の利用の授業であった。表、式、グラフの有用性を生徒に実感させる授業であった。
a の値から難易度は若干高めであったが、生徒は粘り強く取り組んでいた。
- 生徒同士が能動的に課題解決をする場面が多くあった。自分で、学習形態を選び、表、式、グラフの良さを比較しながら学習していた。
- 課題を解決する中でグラフ、表、式よさに気付かせる授業であった。学級のよい雰囲気が生徒同士の教え合いに効果的で、自然とグループができて考えを深め合う姿が見られた。
- 適用問題として、各自の考えで答えを定め説明する問題を設定し、自分の考えを深めさせたり、説明する力を養おうとしたりしていた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- 振り返りの手法に関する提案であったため、導入と終末に焦点が当てられていた。授業展開での既習事項の振り返りを生かしながら考察を深めていく場面があればよかった。
- 2つの授業のどちらも参観できるようにグループ分けをしなかった。良かったという意見と、授業の視点が定まらないといった、否定的な意見も寄せられた。
- 2つの授業を参観するために、見る側が工夫する必要がある。授業の視点が中途半端になることもある。隣接した教室で行うと少しは改善されるのでは。

【富山地区】

- 授業者の負担を軽減する観点から、8月部会で指導案を指導主事に見てもらう前とその後、幹事で検討する場が必要である。また、全中体育大会と指導案作成の時期が重なるため、市中教科研教科部会の時期を見直す必要がある。
- 秋は行事が多く、教員の負担が大きいことから時期を検討してほしい。(運動会の時期が変わった学校も増えてきている) また、リモートを使って遠くの学校の教員は自分の勤務校で見られるようにすることはどうか。参加の仕方がいろいろあってもよいのではないか。

【高岡地区】

- 授業者2人とも育児休業を取得したため、指導案検討の話し合いや授業そのものの進捗にも影響した。今後も起こりうるため、対応が必要だと感じた。
 - 学校規模が小さくなってきている現状がある。授業数を減らすことも検討するべきでは。
 - 協議を始める前に論点を確認しておく必要がある。また、確認してあっても途中から話が脱線してしまうこともあった。限られた時間を有効に使うためにも研究主題に焦点をあてて進めるべきである。
 - グループ協議の時間が長かった。各グループで出た意見を共有する場面では、ただの発表に終わっていたので、司会者は配慮する必要がある。
 - 教師の誘導が多く生徒が発表する機会が少ないと、生徒が理解していないまま授業が進んでしまうので、生徒に説明させる場面を設けることや、生徒が自ら考察する場面と周りの人と考え方を練り合わせる教師側の手段を充実させていくことが必要だと感じた。
- △実施時期が変わらないのであれば、同じ単元を前回の指導案をベースに改善していくといった研究方法もあるのではないか。

【砺波地区】

- 様々な意見や考え方を知り、多面的、多角的に考えるような時間があればよかった。

III 大会の諸準備、諸会合について

(1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)

【新川地区】 特になし

【富山地区】 特になし

【高岡地区】

4 ○現行の各校で印刷するスタイルは負担軽減になっており良いことだと思う。

- 配付されたPDFファイルが読み取りにくかった。各校教頭宛に送付するのがよいか、部員に送付するのがよいかは疑問である。教頭先生の負担が大きい。

【砺波地区】

3 ●指導案を事前に指導主事の先生に見ていただくことは必須なのかよく分からなかった。今回当

該校の校長先生が「その必要はない」とおっしゃったため。
○授業力向上アドバイザーの対応は全て事務局でやっていただき、大変助かった。

IV 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【新川地区】

- 1 ●勤務時間内に終了してほしいという意見と、開始時間が早いため間に合わず遅くしてほしいという相反する意見があり、日程の設定が難しい。
△毎年決まった時期に行うメリットもあるが、実施時期を各教科に一任して、郡市を回していくというのはどうか。A市のある教科は1学期に、B市の別の教科は2学期にやることができれば、異なる単元の授業もできるため、幅広い研究ができるのでは。
- 2 ●2つの授業の参観を指定しなかった。興味のある授業をじっくり見ても良いし、比べてもよいという意図だったが、会員に伝わっていなかったので事前に説明すべきであった。
- 4 ●アドバイザー事業がある年度は授業の協議時間が短くなるのが残念である。
●2つの授業の両方を聞けるというメリットもあるが、深まりきる前に終わってしまったというデメリットもあった。
△グループ協議よりも全体協議の方が、見識のある方の意見を聞けたり深まったりするので良いと思う。
- 5 ○普段聞けない教育学の話が面白く良かった。しかし、後半部分は難しい内容だった。

【富山地区】 特になし

【高岡地区】

- 1 ○今年度は、アドバイザー事業がないため、協議会の時間を十分に確保できた。
●役割分担が曖昧だった。もっと詳しく決めておくべきだった。また、全体への周知も必要だと感じた。
●自分が参観していない授業や協議会の内容が、全体研修会の場で聞くことができるような機会を作れると良かった。
- 4 ●各グループに拡大した指導案が用意されていると、より活発な意見交換ができた。
- 5 △アドバイザー事業のある年度は、協議会が短くなり当日の運営に制限がかかっている。アドバイザーの講演会をオンデマンド方式で行えないだろうか。

【砺波地区】

- 1 ●授業力向上アドバイザーによる講演のプレゼンをプロジェクターとスクリーンではなく、電子黒板にしたところ、ポインターが使えず、不便をおかけした。打ち合わせをしっかりとすべきであった。
- 5 ○授業力向上アドバイザーによる講演では、地域に残る算学の説明から AI の数学における活用など最新の教育法まで、いろいろと教えていただき貴重な時間であった。
●アドバイザーの方の講義が70分あったため、授業に関する協議が非常に限られた時間になってしまった。また、本日の授業に関する助言があった方がよいと感じた。
●授業力向上アドバイザーによる講演は研究しておられる第一人者の方の話を聞くことができ新しい視点を与えていただく意味でよい機会であるが、その講演のため、研究授業の検討が十分できないのは問題であった。部会協議②が授業力向上アドバイザーによる講演のため、部会協議①の40分間は変えられない状態で、北四の発表5分、指導助言者の講評10分を入れると、研究授業の部会協議は25分間しか取れなかった。また、10分間で指導助言者に授業と北四の発表について助言をいただいたのですが、早口でお話しいただくことになってしまった。

V 各研究部会独自の意見や要望 特になし

<理科部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- 教科書の“問題発見”を起点にして、教師と生徒、生徒同士の対話を進めることで、問題意識を高めていく導入であった。
- 対話を進め、問題意識が高まったところで教師が「どんな課題になる？」と生徒全員に問いかけることで、生徒自身が学習課題を設定できる力が育まれる。
- 実験方法を考える場面で、エクセルシートを共有モードにして使用することで、生徒が自由に他の意見を閲覧することができる。対話を苦手とする生徒や言語化が苦手な生徒にとっても、授業に参加しやすい展開であった。
- タイムスケールを活用することで、生徒が授業で行う活動が可視化されており、メリハリある授業を展開できていた。

- 生徒が主体的に課題を探究する姿が授業で見られた。
- 身近な事象から生徒が自ら学習課題を設定したことで、主体的に探究活動に取り組んでいた。
- タイムスケジュールを黒板の端に掲示してあることで、生徒が見通しをもって活動に臨むことができていた。
- 本時は実験計画の場面であったが、生徒が自由に移動しながら意見を共有したり、ICT を活用して全員が他の班の計画を参考にしたりする手立てにより、科学的に計画する活動に深まりが生まれていた。
- ICT を使って振り返りを共有したことで、他の生徒の振り返りを誰でも確認することができた。
- 本時の課題を導入の内容を基に生徒全員で設定することで、より生徒が主体的に課題解決に向けて取り組むことができていた。
- 研究主題に合った提案授業であった。これまで教師が主体となっていた場面でも生徒主体で進めており、特殊なことではなく、実施可能であることも参考になった。
- 実験方法を考える場面では、ICT の活用、班内でのやりとり、他の班の生徒や教師との情報交換など主体的に活動し、生徒が生き生きと授業に参加していた。
- 共有ファイルを用いて生徒の考えを表現する授業は有効だと感じた。

【富山地区】

- 欠席が5名と少なく、ほとんどの理科部員が参加する研究大会となった。
- 1年生の授業は、歯科治療で使用する歯科印象材を用いて噴火を再現し、形や勾配の異なる火山の模型を作成させて、自分の予想を確かめるという授業であった。火山の再現には、材料のねばりけ以外に噴火の回数、噴火の強さ、その後の風化など多くの要素があるが、歯科印象材はそのための有用性の高い教材であった。火山の再現の成否にもよるが、「仮説」を重視した研究主題に迫った授業展開であった。
- 2年生の授業は、空気が冷えるとそこに含まれた水蒸気が水滴になって現れるという既習事項を基に、水蒸気が水滴に変わるために必要な条件を考え、それを定量的に確認するための方法を話し合っって実験計画案を立てるという授業であった。生徒の実態を基に、どんな力を身に付けさせたいかを土台として授業が組み立てられており、既習事項の確認を通して生徒の思考をそろえて、共通認識の中から考えさせる展開であったため、生徒が見通しをもって意欲的に考えている様子が見えた。

【高岡地区】

- 個人で実験計画を立案した後、班で練り上げている。見通しをもつことができ、自分事として学習できている。実験は、班で分担して行われていた。
- 自分の班以外の結果もワークシートに書かせることで、他の班の結果を踏まえて考察できていた。
- ICT を効果的に活用できていた。実験結果の値を学習端末に入力するとグラフ化できる工夫があったり、それぞれの班のグラフを、学習端末からみることができたり、大型モニターで表示したりする工夫があった。それらを踏まえた考察が行われていた。
- 運動エネルギーと仕事の関係を調べる実験では、発射装置を独自に開発しておられた。小球の質量が変化しても一定の速さで小球を転がすことができ、定量的な実験も可能であると感じた。
- エクセルファイルを用いて、班のデータを全体で共有し、自動的にグラフ化することは考察の時間を十分に確保することができるため、適宜取り入れていきたい工夫であると感じた。

【砺波地区】

- 指導案を検討するにあたり、①授業者の所属校での検討、②市研究会での検討、③指導主事による助言、④地区研究会での検討の順で行った。事前に指導主事から助言をいただいたことで、地区で検討する際の視点が明確になり、活発に協議をすることができた。
- 協議会 I の時間を標準の 40 分間から 1 時間に変更した。その結果、研究授業の成果について十分に検討する時間を確保することができた。
- 協議会 I では、研究授業について付箋を用いたマトリクス法で協議した。「本時のねらい」、「研究主題との関連」、「自由進度学習について」、「その他」の 4 つについてのマトリクスに従い、成果と課題・改善点を挙げて話し合ったことで、視点がぶれずに深まりのある協議ができた。
- 自由進度学習の導入により、高いモチベーションを保つことができると考える。自己決定ができたり、学びの幅が広がったりという効果がみられる。
- 天気図読み取りシート（空の断面図、時間と天気グラフ）等、解決しやすい資料の提示が素晴らしかった。
- 準備物の多さ（タブレットパソコン、ホワイトボード、天気図読み取りシート）に感心した。
- 生徒自らが見通しをもてる活動…提示された 10 種類の動物を分類していく活動があった。先に 5 つの動物グループの例となる動物の画像を提示したことで、イメージをもち共通点を考えやすくなり、それにより生徒が見通しをもって課題を解決に取り組みやすくなった。
- 課題意識を高める工夫…指導講話では、提示する 10 種類の動物に工夫がされていて、5 つのグループの分類基準とのずれや、他の生徒とのずれを生じさせていた。そのずれが生徒の課題意識を高めるのに有効であった。

- 生徒が主体的に考える工夫…動物の分類をする際に、分類する動物がシールになっていたことで、生徒が自分の考えを動かすことが容易で、意見が可視化しやすくなっていた。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

〔新川地区〕

- ワークシートで学習展開がある程度分かるので、学習活動のみを記入するなど、生徒に与える情報を精選する必要がある。
- 実験方法を考え、構想を練るまでにかなりの時間を要するので、探究的な流れを意識した授業を行うのであれば、2時間程度必要だったのではないかと感じた。
- 仮説を立てるといふねらいが達成できる指導案であったが、仮説を立てる段階である程度の基礎知識（根拠となる既習事項を含む）があると、学習課題をより焦点化できるのではないかと感じた。
- 本時は、各班の中で一名の生徒が ICT 機器を活用していたが、班員間での共有が少なかったため、一部の班員の意見や考え方しか全体で共有されていないように感じた。また、各班の探究の過程を全体で紹介できるような ICT の活用方法を検討する必要がある。
- 既習事項を基に、様々な実験方法が議論されていた。しかし、まとめの時間は教師主導で進み、多様な意見が一つに集約されてしまっていた。
- 実験方法を考える前に、「デンプンが消化されると麦芽糖になる」など、どこまでの学習内容を伝えておくかという点について協議があった。デンプンでない未知の物質を調べる方法を計画することに対して困難を示す生徒が多いように感じられたため、生徒の実態に応じて、授業の早い段階で「麦芽糖」の存在を示した方がよかったのではないかと感じた。
- デジタル（ICT 機器）とアナログ（手で書く等）のメリットとデメリットを想定して、授業づくりをすることでより生徒が主体的活動でき「分かる・できる」につながると感じる。
- どうしてもついていけない生徒（流れにのれない、いつまでも受け身、表面的に活動しているだけなど）への具体的な支援について、考えていきたい。
- 生徒が自己調整しながら学習を進める際、個別最適な学びとなるよう学習スタイルの選択ができるように準備したい。その際の留意点について考えておきたい。
- 協働学習の基盤となる良好な人間関係の形成がなされるよう、引き続き援助していきたい。

〔富山地区〕

- 歯科印象材は短時間で固まり、生徒たち自らが教材をつくって主体的に考えさせることができる反面、高価であり、予備実験を含めて複数回行うことが難しい。
- 教師の課題設定の仕方、生徒の意識が大きく変わる。例えば今回の2年生の授業の場合では、「水滴に変わる温度はいつも同じなのか」という課題にすると課題意識が高まり、水滴の出やすさは湿度に関係するという授業の本質に迫れると思われる。
- 限られた時間の中でねらいを達成させるためのタイムマネジメントを工夫することが必要である。

〔高岡地区〕

- デジタルポートフォリオなど、ICTを活用した学びの蓄積があればよい。振り返ることで、次の学びにつながる。
- 単元全体の評価計画を行うことが大切である。
- 実験結果を指導者主体でまとめるのではなく、生徒の言葉でまとめられるようにしたい。

〔砺波地区〕

- 指導案の検討について、研究会の構成員の年齢や経験年数によっては浅い協議になる可能性がある。そのため、地区や市で協議する前に、指導主事等に助言を求めていくことも考えていく必要がある。
- ツールがたくさんあり、それぞれの考えが拡散してしまい、まとめられなかった。
- 実験の途中で全体を止めると、一人一人の思考を止めてしまうことになる。
- 生徒は持ち時間を気にせず、没頭してしまった。
- 探究の過程…ポスター形式での発表など生徒が自分の探究を意識できるような発表形式を繰り返し継続していくことで、生徒自身が自分の課題を設定し課題に対する研究ができるようになる。また、生徒の振り返りの機会を確保しなければならない。
- 題材の吟味…生物を類ごとにまとめておき、類を推察するなど、生徒が興味をもち自ら学習を進めることができるような工夫をするべきである。小学校では「必要感」と「自分事」として考えられることを意識して授業をしているため、中学校でも必要感をもたせるような授業を展開していくことが大切である。また、とやま型学習プログラムの視点1から、単元を貫く課題があってもよかった。
- 観点のバランス…単元の評価規準に3観点をバランスよく設定することが大切である。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

（1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付）

〔新川地区〕

2 △地区研究会では、会場運営、授業内容の検討を中心に行ったが、担当郡市の研究内容を踏まえ、

当日の協議会の内容を深めるための検討も行う方がよい。

- 4 ○資料の製本や配布は、各校で印刷する方法を今後も継続するとよい。冊子を希望しない方へは、PDFデータをタブレット端末に送信するだけでもよい。

【富山地区】

- 3 △資料の編集及び事前研修会について、若手教員の増加に伴い、授業者はもちろん幹事にも若手が増えている。そのため、幹事会で1回だけ指導案検討をしても研修主題の解明につながる授業展開にするための深まりのある議論を行うことが難しい。まずは指導案検討会の機会を増やすことが望ましい。

【高岡地区】 特になし

【砺波地区】

- 1 △研究授業を複数回担っている教員がおり、市によって負担の軽重が異なっている。そのため、地区で授業者を割り当てていくなど、負担の軽減を考えていく必要がある。
△授業者の選出について、市毎での交代ではなく一人一人の教員毎に決めていく方がよい。(市によっては、理科部員の入れ替わりがほとんどないため)

IV 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【新川地区】

- 2 △理科室が狭く、参観者の人数も多いため、机間の移動が困難だった。できれば別室からの中継や入室制限(各校2名等)があった方がよいと感じた。
4 △授業者の自評ののちにグループディスカッションを行った方が多様な意見が交わされるのではないかと感じた。
△全体での協議会だったため、発言者が少なく、深まりがなかった。授業者や授業担当の郡市が協議してほしい議題を明確にする、あるいは、他教科の部会で行っている「小グループ協議→発表」という流れにして参加者が積極的に協議に参加できるようにするなど、協議会のスタイルを変更した方がよい。
5 ○授業力向上のためのアドバイザー講義は、来年度の全国学力・学習状況調査においてCBT化される理科の調査で、どのような問題が出題されるかの話があり、大変参考になった。
△授業力向上のためのアドバイザー講義の内容は、興味深い話であり生徒の学習状況を評価するための手法の幅も広がったが、「授業力向上」という視点では物足りなさを感じた。研究主題を踏まえた協議題、内容になるとよりよいと感じた。

【富山地区】

- 4 △今回は常任幹事の伝手で、ボタニカルイラストレーターをお招きした。スケッチを活用した授業の指導方法についての講演を聞き、大変参考になった。以前、地層観察の専門家の話を聞いたこともあり、観察や実験について専門家からの具体的な話を聞く機会があれば授業力向上につながると思われる。

【高岡地区】

- 4 △全員が前を向いて行う形式だと意見が出にくいので、小グループを構成し、各グループで話し合った後に全体で共有するのがよい。
△協議時間をもう少し長くした方がよい。
△協議会のもち方について検討する必要があると感じた。協議会のときには参加者全員に質問や意見を募る形であったが、先生方がどのように感じたのかもっと意見を聞きたかった。群市ごとに質問したいことや参考にしたい点、改善点等をまとめ、その後に全体で共有する形式にするなど、全体の前に小グループでの話合いの時間をとる方がより多くの意見が集まると感じた。

【砺波地区】

- 4 △研究授業の協議が大会当日のメインであるため、協議会Iの標準の時間を増やしたらよいと思う。

V 各研究部会独自の意見や要望

【新川地区】

- △時期が毎年同じであるため、授業の単元が被っている。より様々な単元の研究が行えるように時期を検討したい。

【富山地区】

- △せっかく協議して考えたことや指導主事から助言いただいたことを実践しなければ意味がない。実践する具体的な方法を検討したり、実践した結果を持ち寄って情報交換したりする場の設定が必要である。また学校規模の縮小によって学校に配置される理科教員の数も減っており、指導技術の向上や改善を日々の授業実践の中でどのように行っていくかは喫緊の課題である。理科における基本的な指導技術についての情報交換の場があることは貴重である。

【高岡地区】 特になし

【砺波地区】

△授業者の選出についての分担順を、再検討していただきたい。小矢部市では、授業者は5人（うち半分は再任用教員）から選ばなければならない。

<音楽部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[東部地区]

- 技術科と教科横断的に学習を組み立てたことで、生徒は、社会や生活の中の音楽を意識することができ、音楽のよさや意義について広く考えることができたのではないかと思う。
- 創作の分野は、難しいと思っていたが、丁寧な基礎の指導を1年生から積み重ねて行うことで、3年間の成果がとても感じられた。
- 創作の授業をするにあたって、「跳躍進行」や「順次進行」等の知識を生徒が理解し、言葉や作品として取り入れられていた。
- 1人1台、スピーカー付きの端末があることで、自分の作った音をすぐに確かめることができ、しっかりと自分の作品と向き合うことが出来る環境であった。また、全体発表、グループ発表、個人制作のどの場面においても有効であったと思う。
- スピーカーからの音で生徒の創作の過程がわかり、生徒同士の学び合いにもよい影響があったと思う。参観した教員にとってもわかりやすかった。
- ワークシート1枚の中に、作品メモと振り返りを入れ、生徒が題材の全体を見通して授業に臨める工夫をされていたことは、指導と評価を一体化させるという意味でも有効であったと思った。
- 4人グループで行うことで、困っている生徒に隣の生徒が教えてあげていた。発表の場でも発表者のよかったところをお互いに褒めてあげていて、温かい雰囲気が進んでいたのも、苦手意識のある生徒もやりやすかったと思う。
- 適切な制限やルールを設けることで重要視したい要素に集中することができることが再認識できた。
- 事前準備としての掲示物も分かりやすく、ホワイトボードを見れば、本時の流れや課題、活動の進め方等が分かるのがよかった。
- 評価について具体例を用いて協議したことはなかったように思う。協議会資料の準備は大変であったが、具体的な評価資料に基づいて協議ができたことは有意義であった。
- AとBの生徒の見極め等、全教員が自分ごととして考え協議したことで、新たな視点に気づき、根拠をもって評価をすることの大切さを再確認できた。

[西部地区]

- 教科書に記載されている教材であるが、普段あまり取り上げられることのない文楽を研究授業として提案されたことで、有意義な研修会となった。授業内容についても、指導書等を中心に進められていたのも、今後の授業実践に生かしていけるものとなっていた。
- 教材曲について、聴取する箇所を絞って鑑賞したことにより、生徒は何度も聴いて聴き取りづらい音や音楽の変化にも気付くことができていたのがよかった。
- 題材全体を通して1冊のワークシートを使用したことで、生徒自身が学習に見通しをもったり、振り返ったりすることができていた。
- グループ活動で入力していたPowerPoint（ワークシート）について、書き込み方などの入力例が示してあったので、入力に戸惑うことなくスムーズにグループ活動が進んでいたのがよかった。
- ジグソー学習の要素を取り入れたグループ活動がとてもよかった。その際、発表者と聴衆者の提示の仕方もICTを使って分かりやすくなっていてよかった。
- 難しいと感じていた文楽を、授業者の先生の熱心な研究と語りで、生徒の興味と関心を高めると感じた。題材（楽曲）との出会いの場を大切に、生徒の関心を高める導入の大切さを学んだ。
- 太夫と三味線について深く味わうことで、人形の精巧な動きとの「三業一体」がより感じ取ることができると実感した。
- 研究授業の最後に見せた文楽の映像に、どの生徒も釘付けであった。義太夫節を学習した後で、最後に映像を見せた授業の流れは、音楽と人形との三業一体を感じるのに効果的であった。
- トライ授業や県音研の夏の研究会等の実践を経て、組織的に研究を進められたことで、とても有意義な研究大会となっていた。
- 授業後にFormsを用いた事前アンケートを取ってから協議会を行ったことで、短時間でも効率よく協議が進められていた。
- Formsでの事後アンケートにより、より多くの方の意見等に触れることができてよかった。
- 指導と評価の一体化を進めるために、授業を行っていく中で大切なことを教えていただいた。毎時間の授業で評価を行うのではなく、どこで評価をするのかをきちんと計画を立てて行うことや、授業の最初ではなく最後の方で評価することなど、これからの授業改善に生かしていきたい。
- 「指導と評価の一体化」について、分かりやすく教えていただくことができた。「形成的評価」と「総括的評価」、さらに「観点の評定バランス」まで考えて授業をしていかないといけないと実感した。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

〔東部地区〕

- ICT機器で作成した作品や意見をいかに全体で共有していくか。たしかにグループやペアでの意見交換の場面はあったが、生徒の発言が広がらず、音楽表現活動なのに深まらず沈黙の時間に陥りやすい。(今回の授業と言うことではなく、一般論だが…) ICT機器を活用しながらも考えや思いを共有して深め合い、音楽を創り上げていくこととICTを活用していくこととのバランスが難しい。
- 学習班での創作活動中で、一人ずつスピーカーが与えられていたのはよいと思ったが、他のグループの音も混ざって聴こえてきて、自分の創作したメロディーの音が聴こえにくいのではないかと思った。環境にもよるが、他のスペースで活動をする方法も考えていけたらよいのではないかと思った。
- 創作する音について、どこまでのものを求めるのか考える必要がある。教員から創作の条件を伝えるだけでなく、生徒の思いを尊重したり、生徒の実態を把握したりすることも大切であると思った。
- 生涯に渡って音楽を愛好する生徒の育成には、どのように音楽的な見方考え方を生徒に身に付けさせる方法が有効であるかという授業研究や、音楽的な見方考え方を活かしてどのような音楽の楽しさを味わうことができるのかを実感できる場の設定についての研究があってもよいのではないかと感じた。
- 指導したことがどれだけできたかという評価と、音楽として美しい作品かということは、必ず同一でないので、さらに評価について考えていきたい。

〔西部地区〕

- 他のグループの発表後に全体で音源を聴取した場面で、生徒が言語と音が結び付き納得できる姿がもっと見られると、なおよかったと思う。
 - 終末で人形の動きが入った映像を見せていたが、授業の冒頭でも映像を見せることで、より学びが深まったのではないかと思う。
 - ICTを活用する場合、うまく機能しなかった場合の手立てをしっかりと考えておくことが必要だと改めて感じた。教師の準備だけでなく、生徒にも伝えておくことも大切だと感じた。
 - ジグソー学習の後に、全体での共有の場があればよかったのではないか。
 - 1時間の授業の中で「話す」「聴く」「考える」「まとめる」と非常に速いテンポで授業が進んでいったため、それぞれの場面で余裕をもたせるためには、どのようにすればよいのか。
- △ICTの利用が、授業の目的を達成するためのICT利用を工夫していかなければならないと感じた。ICTを利用して、個の学習内容の蓄積も出来れば良いのではないか。

III 大会の諸準備、諸会合について

(1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)

〔東部地区〕

- 2 ○ 中新川、滑川も事前の研修に参加させて頂き、大変勉強になった。研究、研修はある程度、人数が集まったほうが深い話し合いになることを実感した。
- 3 ● 今後も事前に指導案検討ができるとよいが、早い時期の完成は授業者にとっては負担でもある。
- 4 ○ 指導案を配信しておくことで、事前に見ることができ、受付での手間も省けてよかった。○ 8月の富山市定例部会での指導案検討とカトカトーン実践、9月の新川地区三市二郡での研究授業を通して、連携して授業研究ができたことが大変よかった。

〔西部地区〕

- 西部地区大会を迎えるに当たり、高岡地区の部員の皆さんの協力体制が手厚いように感じた。部長を始め、部員の皆さんで授業を研究され、ワークシートを作られている事が良く分かった。授業者の先生だけに任せきりにせず、市全体で、協力して授業研究を進めていくことの模範となった。

IV 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

〔東部地区〕

- 4 ● 部会協議②についてはグループ協議の時間が少なく、創作活動の評価の課題(問題点)の解決策らしきものが出せなかったように思う。

〔西部地区〕

- 4 ○ formsの利用により、全員が意見を出せて、画面で表示されると意見を反映されているように感じられた。何より、目から入ってくる情報は思考が整理されやすく議論もしやすい。協議の時間があまり取れない状況の中では、とてもよいアイデアだった。
△授業力向上のためのアドバイザー講義がある場合は、授業に関する協議時間が短いのがもったいない。講義がある年は、研究授業を行わないという運営があってもよいのではないかと思う。
- 5 △ 東部・西部と隔年でアドバイザー講義を行っているが、貴重な機会なのでオンデマンド配信をするなどして、毎年すべての教員が講義を聴けるようになるとうい。(東西交流をするにも、学校行

事等がありなかなか参加できない場合も多いため)

V 各研究部会独自の意見や要望

〔東部地区〕

△今後、生徒数の減少に伴い、先生の数が減っていくこともあるため、技術・家庭科部会のように、研究授業が実施できないことも予想される。研究大会のあり方そのものも考えていかななくてはいけないと思う。

△音楽科は学校に1人しか配置されていない学校がほとんどであることから、個人の実践でなく、郡での4月からの共同研究という形を目指していけると、音楽科教員同士の連携も深まり、理想的だと思う。

●評価についての話し合いがあったが、ワークシートだけでは読みとれないことが多々あり、話し合いは難しかった。タブレット教材を使用した授業での使い方等についての時間があるとよかった。

〔西部地区〕

○江田先生の講演会がとても分かりやすく、勉強になった。パワーポイントの資料をデータでいただき、今後の参考となった。

<美術部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

〔東部地区〕

○板書に本時の目標と授業の流れが明確に書かれ、生徒が何をやらなければいけないのか一目で分かるようになっていた。

○生徒はタブレットを利用して自分の考えを发表或し、自分の感じた思いを書き込んだりすることで、今後の制作への意欲を高めていた。

○ICTを用いたことで、班員の作品や思いを共有することができ、他の意見も参考にしながら活動に取り組んでいた。

○ICTを用いての班活動では、班員のコメントを見ることができ、自分の制作の考えをまとめるための手掛かりになっており、今後の表現活動にフィードバックされる内容であった。

○タブレットを操作しながら話し合いに参加する生徒の様子からも、日頃の指導の成果を感じた。

○班員の制作の工夫点を知ったり、アドバイスをもらったりすることで、自分の作品を見直すきっかけになった。

○アイディアスケッチのためのテンプレート等が準備され、生徒が自由に選択できるようになっていた。

○美術室内に様々な色やデザインのパッケージが見本として展示されており、自分も作りたくなるような環境が整えられていた。また、色ごとに分別して展示されており、それらを参考として生徒が作りたパッケージをイメージしやすい工夫がされていた。

○制作の場面では、試作品を班員と相談しながら形をつくる生徒や描画キャンバスでイメージを描く生徒、スケッチブックで描く生徒など、自分の表したいツールを選択し、どの生徒も意欲的に取り組む姿が見られた。

○ドローイングソフトやスケッチブックを活用して描いたり、試作や実物を用いたりするなど、各自が表現方法を選択して話し合いに臨んでいた。

○題材に関するパッケージや参考作品の展示が工夫されていたので参考になった。また、用具等が整備されており、生徒の創作意欲が刺激される教室環境であった。

○ICTを用いた評価方法について、しっかり検討された実践であり参考になった。ルーブリックについては、生徒の姿や作品から言葉を整理していくことの大切さ等も学ぶことができた。

○ICTを授業に効果的・適切に取り入れたことで、学習課題「みんなに伝わる説得力のある企画書を考えよう」の対話的な学びの活性化に大きな成果があった。

〔西部地区〕

○今回部会協議で、事例研究の情報交換を行った。普段交流できない他都市の先生方と話し合うことができた。他行のICTの取り組みや成果と問題点を聞くことができ、参考になった。

○勤務校には複数名いないことが多い教科のため、このような協議、話し合いで意見を出し合えることは大変有意義であった。今回議論になったのは、生徒作品の表現に他生徒のモダンテクニックの材料を使用することについて、また評価の方法など互いの考えを出し合えたので良かった。

○学習者用端末を効果的に活用した素晴らしい授業であった。

○事例研究で情報交換を行ったことで、日頃の実践に対する改善を考える機会となった。

○ICTの活用事例が氷見市でも導入されているソフトウェアだったので、とても参考になった。

○コロナ禍を経て、生徒同士がいかに関わり合って学びを深めていくかについて考えることができたこと。

○西部地区大会の発表では、高岡地区のICT授業活用例を見させていただき、大変参考になった。

授業研究では、1年生生徒がモダンテクニックを用いて「自分」を花として表す取組であった。面白い設定であり、自由に制作している様子が伺えた。ICTの活用としては、徒自身がポートフォリオを生かして学んでいる様子が見られて参考になった。また、生徒に対する教師のあたたかい接し方等も新鮮に感じられた。

- ICTを使い、作品をポートフォリオとして保存していくやり方が、自分の成果を確認したり、友だちの作品を見て参考にすることができたりするところがよかった。
- 花の形と色に関しては、生徒が自分で作り、目で見て選び、組み合わせることができていた。実技的な部分や感情を色や形で表す部分など、ICTを使わないで学ぶ場面があり、ICTを使う場面とうまく使い分けができていてよかった。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【東部地区】

- ICTを使うと情報共有できるメリットがあるが、企画書のスライドにコメントを書くことに一生懸命になっていたので、終末の振り返りの時間に本人が班員の助言を基にどんな構想を練って修正していくかについて入力する方が制作時間を確保するためにも有効なのではないか。
- ループリックを生徒と共有する場面はどのタイミングであるのかと思った。
- 活動のスペースを十分に確保することが大切である。向かい合って、ハサミやカッターを使用することは、安全上の配慮や工夫が必要かと思った。
- アナログとデジタルをそれぞれ効果的に使えるようにしていくとよい。
- 今後も、他の作品に関する著作権や知的財産権等に関する指導も必要である。

【西部地区】

- 授業者、発表者の確保が年々非常に難しい人事情である。研究会や、協議会の方法を考えていったほうがよいと感じた。
- ICTの活用事例だけでなく、実際に使う際の注意点など使い方の共有があるとICTが不慣れな教員でも使用のきっかけになると感じた。
- 事例研究を行ってみて、日々の実践や使っている教材などを共有する場があれば、教材研究の幅が広がり、授業の質の向上に繋がると感じた。
- ICTの活用ばかりに着目され、美術科が本来身に付けさせるべき力が曖昧になってきていること。
- 指導案検討や運営等の役割分担については手法はともあれ地区をまたがって行った方がよいと思われる。なぜなら、何にも関わっていない場合は心理的にお客様になってしまい、研修に対する意欲の高まりが弱まりかねない。具体的には、負担にならない程度に、メールで指導案の骨格の共有し意見を吸い上げる、駐車場・受付・授業記録・研究協議会記録などは他地区教員にも分担させるなどするとよいと思われる。みんなで作くりあげる研修であるとの意識を確認し、遠慮はまったく不要である。
- 協議会では、どこまでICTを使うのかについての意見が出た。作品の参考にインターネットで検索するとアイデアは浮かびやすいが、類似の作品がたくさんある。著作権の問題もあるが、美術科で求められる構想を広げる段階として、どこまで認可してよいもののラインが必要なのではないか。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

(1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)

【東部地区】

- 1 ●会場校の決定について、会場校で複数教科が研究大会を行うと準備や運営等が大変になるので、可能なら調整できたらよい。(駐車場や協議会場等)
- 3 ●担当地区で事前打ち合わせを行っているが、指導案等の送付の仕方の変更点等、他郡市の部長が確認できるとよい事項もある。郡市部長が事前打ち合わせに入った方がよいのではないか。

【西部地区】

- 1 ●今回3教科の部会の研究大会が同じ中学校で開催となった。授業者で順番を決めているため仕方ないことではあるが、調整が可能であればできるとよい。
 - 地区持ち回り制の見直しを早急に行う。
- 4 ○研究大会資料は、各郡市の部長にデータでの送付、各自印刷してもらった。今後もこの方法がよいと思う。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【東部地区】

- 1 ●受付時間を早めると、授業の研究協議の時間が確保できたのではないか。指導者に対してフィードバックが少なく、時間設定に工夫がほしい。

【西部地区】

- 1 ●複数教科の開催となった会場校の先生方には大変ご負担をかけてしまったと思う。会場校の教頭

先生から、事前にそれぞれの教科で分担すべきことなど予定や準備などを前もって資料をいただけたので準備に見通しがもて、助かりました。ありがとうございました。

- 研究授業の協議時間が短かった。アドバイザーがいなかった場合はもっと時間を取ってもよい。
- 4 ●ICTについての協議だったが、同時に画材はポスターカラーとアクリルガッシュのどちらを使わせるか、スケッチブックは持たせるか、授業ごとの振り返りをどうするか等について話題が出て、そちらの協議の方が盛り上がった。若い教員も増えているので、もっと基本的な指導について、協議や情報共有できる場が求められていると思う。
- 活発な意見交換となり、有意義な研修となったが、授業研究の協議時間がもう少し長く取れたらよい。
- 第二部では、ICTに限らず、環境づくりやワークシート等の資料と実際の作品、生徒の感想といった一連の題材紹介もあればよい。以前の様なしっかりとした発表ではなく、簡潔で負担の少ない紹介ならば、美術教員の学ぶ意欲は高まるのではないだろうか。
- 5 ○今後も、東西交互に授業力向上のためのアドバイザー講義を実施していただきたい。

V 各研究部会独自の意見や要望

【東部地区】

- アドバイザー講義が毎年実施されるとよいと思う。
- 美術室の環境は、指導者の工夫が大きく表れていると思うので、ICT活用以外にも、ウェブを活用した美術室の紹介のような取組ができるとよい。
- 各校でのICTの実践が蓄積されている頃であると思われるので、日頃の授業実践についての発表の機会があってもよいのではないかと。

【西部地区】

- 隔年開催を検討していただけるとありがたい。
- 今後も日々の執務に負担が大きくなり、日々の執務に生かせる研究を進めていけたらよいと思う。
- 研究大会のあり方を見直すべき時期に来ている。多くの学校で非常勤講師の現状もあり、年々研究授業を行うのが難しくなっている。協議会も一部の先生だけが意見を述べている。このままでは近いうちに立ち行かなくなることも考えられる。正規の美術科教員数が減っていくことも鑑み、これから3年程度をかけて新しい研修体制を作るべきだと感じる。そのための研究改善委員会の設立を提案したい。
- 年に3回行われるこの専門部研修会で、各部会の研究計画と成果を持ち寄るが、形骸化している。Formsを使ったアンケート入力などで、紙1枚にしていくなど、効率化を図るべきだと思う。
- 郡市を越えて、ワークシートや指導案、ICTの使用方法など授業の共有ができるとありがたい。

<保健体育部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- 授業前に「授業の視点」が提示されるなど、本時の流れが明確であり、生徒が見通しをもって活動に取り組んでいた。
- 練習を行う上で、各チームのねらいが明確にされており、相手コート空間を攻める動きにつながってとても効果的な練習になっていた。
- 攻守入り乱れるような球技においても、男女共修で学んでいた。積み上げてきた学習環境づくりが感じられた。
- 共生の観点から、男女共修が基本となる授業であり、とてもよい学習環境のもと実施されていた。学校全体の取組と感じた。
- 3対3の設定は、空いているスペースを作りやすい機会が確保され、生徒が考えて意図的に活動できていた。
- 振り返りや学習カードの入力をタブレットで行っており、なかなか考えが思いつかない生徒でもリアルタイムでほかの生徒の意見を参考にできるため効果的であった。また、教員からのフィードバックもその場ですぐに行っていた。
- ICTが効果的に活用されており、セットプレーの例示や試合の様子を上から撮影し、試合後すぐにチームで振り返りを行うなど話し合いを深めるために大いに役立っていた。また、練習の動画視聴は、グループ内のリーダーが解説しながらポイントを指摘しており、主体的な活動が確保されていた。
- ICTを有効に活用されていた。生成AIを取り入れられており今後もっと有効に活用できる可能性を感じた。
- 生徒がいつでも様々なオフェンス方法を見ることができるよう、大型モニターが設置してあったことはよかった。
- ICTが有効に活用されていた。Formsで入力→Excelで全員で共有できる点がよかった。直接Excelに

入力ではないので、他の人の情報を間違っって消すこともない。

- 全班にポケットWi-Fiが配布されていたことで、動作環境がとてもよかった。
- 生成AIを話し合いの手段の一つとして利用していた点がよかった。

【富山地区】

- 自分の考えを仲間に伝えるための手立てとして、動きのポイントやつまずき事例を提示したことで、観る視点が絞られ、意見の交流や共有が積極的に行われた。
- 課題に応じた練習方法を提示し、練習を選択して取り寄せたことで、課題を明確に認識することができ、課題解決に向けて自らの課題を意識して練習することができた。

【高岡地区】

- ICTを用いて、個々の課題を把握することで、個別に声掛けすることが今まで以上にできるようになった。また、練習方法を動画で提示しておくことで、生徒が必要に応じて確認することができた。
- 課題に対しての練習方法の模範動画を見ることができるようなど、生徒が活動を確認したり振り返ったりすることができるように準備されており、手立てが必要な生徒もしっかりと選択できるようになっていた。何をすべきなのかが明確になり、活動しやすくなっていた。
- 課題が実際のコートを表した画面に表示されており、どのチームがどの場所でどんな練習（課題克服に向けての取り組み）をするのかが、一目で共有できるようになっており、課題の明確化がなされていた。
- 男女混合のチーム編成をしたことは生徒同士の関わり合いの一助となった。
- たくさんの場面でICTを活用していたが、その使用のみならず、活動量もしっかりと確保された授業であった。

【砺波地区】

- 授業の導入で、電子黒板を2つ準備し、一つめの電子黒板にはそれまで蓄積してあった生徒の試合映像から、模範となる生徒の動きの場面を切り取って提示し、二つめの電子黒板には、生徒の名前や矢印等を図示し、可視化することで課題を確認できるようにした。話し合いの進め方の例も大変分かりやすく、効果的な使い方がなされていた。ICT活用方法として、とても参考になった。
- 電子黒板を活用し、「ボールを持たないときの動き」を可視化することで、本時の課題である「空間の活用の仕方」に対する理解を深めやすくなった。
- ICTを効果的に活用について、前時の動きを再生してよい動きを確認し本時のねらいにつなげていた。さらに、生徒の課題意識の高まりにもつながっていた。また、動画で見た動きを別の電子黒板で図に示し、生徒に理解しやすく工夫されていた。
- ICT機器を活用し、効果があった。特に、動きの確認や比較をし、自他の動きを客観的に捉えられるようになっていた。生徒は、それを生かして作戦をたて、ゲームに生かしていた。
- 生徒の動きで気になるところはすぐに練習を止め、生徒の思いを聞いて作戦を具体化させようとしていた教師の働きかけがよかった。
- 球技における「ゴール型」の単元において、アルティメットを教材として用いることで「ボールを持たないときの動き」を中心に身に付けさせたいという、教師のねらいに沿った授業になっていた。
- 「アルティメット」の特性を生かし、空間の使い方やボールを持たない動きを学ばせるには適していると考え、授業が仕組みまれていた。
- ゲームの動画や作戦板を撮影し、ゲームの中での動きの変化を評価するようにしていた。
- アルティメットは、皆が初めて取り組む教材で、能力差のない、男女共習しやすい教材でよかった。男女共習の良好な人間関係が3年間継続されているのがよいと感じた。
- 共生の視点に基づく授業づくりがされていた。これまで経験していない競技に取り組み、生徒が互いに意見を出したり協力したりして、学び合える場となっていた。
- ドリル教材とゲーム教材を継続かつ難易度を段階的に上げながら配置した単元構成がされていた。
- アウトナンバーゲームで学習した空間の使い方を取り入れ、生徒は、ボールを持たない人の動きを考えるなど、授業展開が工夫されていた。
- アルティメットのアウトナンバーゲームでは、ドリブルができないという特性上、周りの生徒が動かざるを得ない状況になるため、運動量の確保や空間を意識するという点で面白い教材だった。今後、バスケットボール等の球技でこの学習を取り入れ、生かしていく予定である。
- 運動量が確保されていた。（少人数であることも要因）
- 単元の構成において、ドリル教材とゲーム教材を継続的かつ、難易度を段階的に上げながら配置していたことは、生徒が学習内容を確実に習得するために効果的であった。
- 準備運動から協力性が必要な動きが多くあった。
- セルフジャッジ制を生かし、事実を忠実に判断することを通して互いを尊重することを大切にしていた。

<授業力向上アドバイザー講師 佐藤 豊先生より>

△世界が向かうウェルビーイング2030の考え方は、個人や社会の幸せや生きがいでこれはSDG'sの考えや共生、多様性等様々なものが入り混ざって世界の共通目標になっている。それらが総合的

になり、体育の中で育てていくものは何か考えていくという議論に今後はなっていく。願わくばウェルビーイングの中に、スポーツという選択肢をできるだけ多くの国民に与えたい。「する」ことが難しければ「観る」「支える」「知る」ことを、その子に応じて保証していきたい。

△外からの刺激が少ない学校の場合、オンライン授業で他の学校と交流授業をしたり外部のリソースを使ったりするとよい。学校という組織そのものをクローズにしないで、地域から力を借り、高めると考えて指導に当たるとよい。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

〔新川地区〕

- チームの特性を生かした戦術を工夫する、共生の視点を踏まえた協働的な学びにおいてとても有効な活動が盛り込まれていた。専門的な動きも理解している様子でねらい通りの学習であったと考える。生成AI等の有効的な使い方をさらに模索していけばさらに良い学習になるのではないかと感じた。
- 授業の協議をする際に、参加者がそれぞれ「自分の学校だったらどうこの授業を行うか」という視点を持つべきだと感じた。「人数や環境面で真似できない」という意見で終わってしまっただけは授業を提案してもらっている意味がなくなってしまうので、提案授業から参考にできる部分や取り入れたい部分、アレンジできる部分を見付け、協議していく場になるとより効果的であると思う。
- 今回のForms→Excelの学習カードはとてもよかったと思うが、相当なICTのスキルがないとできない活用方法だったように思う。ICT支援員の協力がないととても難しい。
- 体育館では、ほとんどの学校ではWi-Fiが飛んでいるとは思いますが、今後外での種目でICTを活用したいときは環境の整備が必要である。
- 生成AIの活用方法について、使いこなすためには技術が必要である。
- 生成AIを利用した際、質問内容と答えに加え、関連動画と紐付けすることができていくとさらによい。
- 動画視聴の際に、画面にマーキングできるソフトがあると、動きや空いたスペースの確認がより効果的にできる。
- 見る側の視点での動画撮影（撮影範囲）を考慮する。事前指導があるとよい。生徒自らの気付きを狙いとするならば、このままでよい。
- コート上の設定人数（今回は3対3）を増やした時、ねらいを達成するための効果的なグルーピングや練習方法等の工夫が必要である。
- 振り返り内容を端末に保存するだけでなく、紙でじっくり確認したり、確認したりするとき、すぐに取り出すことができるようにする。（例えば、ある程度入力されたものを教員が印刷し、配布したり、掲示したりする等）

〔富山地区〕

- 「個別最適な学び」を意識した授業が提案され、新たな視点を獲得することができた反面、「個別最適な学び」の解釈の難しさを実感することとなった。今後、共生の視点に基づく授業づくりについて、「性差（男女共習）」ではない共生の在り方や自由進度学習の視点を意識した実技指導の研究が必要である。

〔高岡地区〕

- オクリンクプラスで共有した課題や動画を題材に話し合うための教師の手立てを充実していくことが必要である。
- 共生の視点を生徒に価値付けるため、授業規律を整えることや競技を適切に教材化していくことが必要である。
- ICTを活用し振り返りを行った後、その共有できたことをどう生徒に還元していくかということを検討していく必要がある。意見を広げたり深めたりする時間を確保について研究が必要である。

〔砺波地区〕

- 導入での画像の解説は、生徒が見付けたように仕向けるとさらに効果的だった。
- 生徒たちの振り返りの中で、本時の課題である「空間の活用の仕方を身に付けよう」から逸れた意見が多々見られたので、課題に対しての振り返りになるように、問い方や声掛けの工夫が必要ではないか。
- 人間関係が固定化し過ぎて、パスが繋がらない原因が、あえてパスをもらいたくないからもらえる距離にいないことも考えられる。人間関係のコミュニケーションをどのように高めていくかが課題である。
- アルティメットは3年生で初めて取り組む教材であるため、運動が苦手な生徒に対しての支援が特に必要である。スペースの使い方を確認するために作戦ボードを用いたり、教師が生徒と一緒に実際に動いたりすることで、生徒の課題を解消していきたい。

III 大会の諸準備、諸会合について

（1 会場都市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付）

〔新川地区〕

4 ○資料の製本や配布について、今年度は事前にデータで送付され、各自で印刷するかデータを使用するか選択できたので、次年度以降も同様に実施すればよい。

〔富山地区〕 特になし

〔高岡地区〕 特になし

〔砺波地区〕

2 △指導案検討は、8月下旬の地区研究会に合わせて行うのがよい。

IV 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

〔新川地区〕

1 ●授業の開始時間の関係で協議会①の時間が短くなってしまった。それでも時間が押したので、協議会②の運営にも支障が出た。可能なら授業開始時間を早められるとゆとりのある運営ができると思った。

〔富山地区〕

5 △アドバイザーの講義は大変勉強になるのだが、授業内容に関する協議の時間も十分に確保したい。6月部会や8月部会にアドバイザーの講義をしていただくという選択肢もあるとありがたい。

〔高岡地区〕

4 ●研究協議について、協議会の進め方については、各教科に任されていると思うが、若手教員も増えているので、進め方の例等を教えてもらえるとありがたい。

〔砺波地区〕

4 ●全体協議でなく、グループ別協議がよい。

●生徒の様子から主題解明に迫るよう部会協議を進めていく。

●教員の挑戦を大切に協議になるように配慮して進行する。

●研究協議について、時間が短く、提案授業に関する協議、研究主題に関する協議共に十分にできなかった。部会協議Ⅰをもう少し長くしていただけるとありがたい。

5 ○授業力向上のためのアドバイザー講師について、ぜひ続けてほしい。教師の授業に対する準備と姿勢が変わる。

○授業力向上のためのアドバイザー講義について、たくさんの情報を提供していただいた。それをもとに今後の授業に生かしていきたい。

V 各研究部会独自の意見や要望

〔新川地区〕

△来年度、新川地区は黒部市が担当の予定となっている。今の案ではソフトボールを検討しているが、外でのICTの活用となると動作環境が無いので、動画撮影以外の活用が難しくなる。ポケットWi-Fi等の活用となると、学校だけは解決できない問題になるだろう。今年度はできれば「ICTの活用」、「共生の視点」を関連付けた授業提案の方が望ましいとのことだったが、来年度の方向性を協議・検討していきたい。

○朝日中のICT活用事例の紹介もあり、参考となる情報提供があった。考查のマークシート化、プロジェクターを各班に配布し使用方法など。

〔富山地区〕 特になし

〔高岡地区〕

○本年度は指導主事への指導案の事前相談を行わず、部会所属教員と理事で検討して作成を行った。

〔砺波地区〕

△郡市部長は、データを次の担当者へ残し、負担の軽減と仕事の効率化を図る。

<技術・家庭（技術）部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

○研究授業では、アクティビティ図を活用して各自の課題解決に迫るという実践を行った。その授業の中でも授業者が授業展開をアクティビティ図に示し、その実践事例を可視化して提示したことで、学習者が利用場面を想起することにつながった。

○プログラミング的思考を考えるにはよい授業であった。

○班別の活動をしながら協働的な学びや、それぞれのスライドから必要な情報を取り出したり、情報を比較し、関連付けて（自分と結び付けて）整理したり、自分なりに解決し、知識を再構築したりする「読み解く力」を育てる場面が見られた。

○今日の学びが社会に出た際のどのような場面で活用できるかを提示することで学習者の学習への意欲を高めていた。

○重要な事柄に対しては授業者が何度も繰り返し確認することで定着に一定の効果があった。

- 授業力向上のための講義では「振り返り」の効果についてご指導いただいた。「学びに向かう力、人間性等」の観点の評価する際には、振り返りを活用することが効果的であること。
- 「振り返り」が、学習者の主体的な学びを促進すること。「振り返り」は学習者が自ら学びとるしなく、その際には互いの自己評価を相互的に見合うことで模倣したり、比較したり、改善したりしながら自分の次時の目標を設定することにつながり効果があることが研究でも明らかとなっていることをご教授いただいた。相互に見合うためにはICTの活用が効果的であることも併せてご指導いただいた。
- 今年度の西部地区大会は、授業研究を行わず、講演会と前日の東部大会の記録を録画再生しての講義形式のものであった。部会協議①の富山県立砺波工業高校 島先生による高校と中学校の連携授業や具体的な高校での学習内容、さらには3Dプリンタを使っのデジタルファブリケーションの実際についての講演は、今後の技術科教育への大きな示唆になったと思う。
- 部会協議①では、砺波工業高校の先生を講師として招いた。工業高校に進学した生徒がどのような学習をしているか理解が深まった。また、中高接続の例として、3Dプリンタを用いた砺波工業高校と福野中学校のコラボ授業についての活動報告があり、その成果を学ぶことができた。
- 部会協議②では東部大会の講演の動画を視聴した。講師はC4t hの開発段階に携わり、校務のデジタル化を推進された実績がある。講師のご苦勞によって校務運営システムの導入が進んだこと、さらにこれまで知らなかった校務運営システムのメリットについても理解することができた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 授業者への負担が大きく、部会としてどのように支援をしていくかが大切であると感じた。
- 今後、全県での研究大会となるため、従来通り4地区でそれぞれ研究を進めるのか、それ以外の進め方を考える必要があるのかを検討する必要があると感じた。
- アクティビティ図、フローチャートにしる、事前に思考の流れを図にすることが大事。
- 技術の情報だけでなく、技術の4領域、全ての教科を通して、論理的思考、プログラミング的思考は必要。自分が意図する一連の活動・動作を実現するためにどのような組み合わせ等が必要なのかを普段から考えるような場の設定が必要。
- これらの体験を元に、どのようなプログラミングや計測・制御につなげていくのか考える必要がある。
- 部会協議②は、東部地区で行われた授業に基づいた講話であったが、西部地区のみ参加の教員はその授業を部分的にしか視聴できなかった。そのため、理解が十分でない点もあった可能性がある。ただし、この点は来年以降、研究大会が東西合同になることから自ずと改善されるものと考ええる。
- 来年度は、全県1部会での開催になるということであり、より多くの先生方が介しての研修会となる。研修を深めていく上でより多くの知己に触れることが、非常に大切なことであると考えている。

III 大会の諸準備、諸会合について

- (1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)
- 1 ●授業者で研究授業を進める本教科としては、授業者が直前に異動となったのは準備等が大変であった。
 - 3 ●3年間の年間指導計画の見直しに対して、周囲の部員と連携したり、情報交換等をしてしたりして、田中教諭だけの取組とならぬよう、支援を継続していく必要が感じられた。

IV 研究大会当日の運営や内容について

- (1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)
- 2 ○富山市立大沢野中学校の田中教諭による1年生における情報の授業が行われた。3年間の年間指導計画を見直し、1年次に「D情報の技術」を行い、課題の難易度が上がる「A材料と加工の技術」の実習を3年次へと変更しての実施であった。また、授業の中において、アクティビティ図を活用してユーザーの利便性を向上させる際に、自己評価だけではなく、他者からの客観的な評価を受けるなど、問題解決的な学習を意識した取り組みが見られた。授業の振り返りでは、これまでの自己評価を記録し、自己の課題の変化や見直しができるよう工夫されていることが伝わった。
 - 5 ○部会協議②においては、岐阜聖徳学園大学の玉置教授による講演だったが、聞くだけではなく参加型の講義だったため、講演の内容を自分事として捉えやすく、大変ためになるものとなった。
 - 授業力向上のためのアドバイザーの講義の事業は非常に実りのある事業であり、今後とも、継続していただけることを強く願う。

V 各研究部会独自の意見や要望

- △次年度より、全県での研究大会となることから、大会当日のみならず、準備や運営等も含め、今後持続可能な大会となるように進めていきたい。
- △東西合同で行う場合、場所によっては移動に数時間かかることも考えられる。遠方からくること

- も考えられるので、オンライン上での大会参加も検討してほしい。
- △今後技術科教員の減少は避けられない。大学、特に北信越にある教育学部に、技術教員の養成課程の設置の要望を出してほしい。60歳以上の技術科教員ばかりにならないように手を打ってほしい。
- △来年度の全県一部会実施に向けて、問題点等を洗い出す必要があるのではないか。
- △持続可能な研究大会となるよう、スリム化・負担軽減のため、他の研究団体（中産振等）との兼ね合いも検討していく必要がある。

<技術・家庭（家庭）部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[東部地区]

(部会研修)

- 消費者トラブルについて様々な事例を知ることができた。この分野は、指導者のアップデートが必要だと改めて考えさせられた。
 - 生徒の実態や社会の現状に応じたテーマの講義となり、参考になった。
 - 中学生が陥りやすい消費者トラブルについて、具体的な事例を知ることができた。
- ##### (部会協議)
- 指導と評価の計画、展開例についての話し合いは有意義であった。
 - 指導主事の先生の説明が分かりやすかった。今後に生かしたい。
 - 指導案について深く検討できたので、自分の授業にも生かせそうだ。
 - 消費生活分野は、授業研究がこれまで十分にできていない点があったので、グループ協議によって、いろいろな展開例を知ることができてよかった。
 - 指導案だけでなく、指導と評価の計画も発表資料にあったことで、全体の流れを考えながら検討することができた。
 - 他郡市の先生方と授業の仕方について共有できてよかった。
 - 若手の先生方から3つの指導案の提案を受け、それを基に検討することで、消費生活と環境の授業の展開について改めて考えることができ、様々な意見も聞くことができた。大変参考になった。
 - 指導と評価の計画、指導案の作成を担当したことで、大切なことを改めて学ぶことができた。
 - 指導案についてグループで改善すべき点について協議していただいたことで、今後の研究について見通しが立った。また、指導と評価の計画を立てる際の書き方とその意味について理解が深まった。令和9年度の研究大会に向けて見直しを図っていきたい。
 - 実のある深い話し合いの場は、今後の新たな取組の一例となったと思う。

[西部地区]

(研究授業)

- 大型モニターを使っただけの振り返りは生徒にとって分かりやすく、時間短縮にもつながっていた。
- 地震の被害と備えを考える際、1人1台学習端末でWEBアプリを使ったことは、個々でそれぞれの課題を解明していく上で効果的であった。
- 「友達に聞く」「本で調べる」「インターネットで調べる」の中から学習形態を選択することができるため、意欲的に活動に取り組んでいた。また、授業者がいい考えをもっている生徒にお助けマンカードを渡したことで、カードを受け取った生徒は自信をもってつたえることができていた。
- 班での話し合いでは、共通の内容を示すシールを用いることで、考えの共通点や相違点を視覚的に捉えやすくなった。
- 意見を共通点や相違点で整理することで、自分事としてとらえやすくなっていた。
- 導入のパワーポイントの使用や大型モニターの使用は生徒にとって分かりやすいと思った。
- 考えを深める学習活動のときに、友達と考えを交流させたり、インターネットや本から情報を得たりするなど、自分に合う方法を自分で選択することは、主体的でかつ自分の課題追究に合わせた学習ができることにつながったと感じた。また、ワークシートかプレゼンテーションか自分で選択できたことは、書くことではなく、考えることを重視することにつながっていたと考えた。学習形態や学習方法の選択肢がいくつかあったことが生徒の自己決定や主体性につながっていたと思う。
- 個別最適な学習方法を自分で選択させており、生徒が学習形態や学習方法を自分で決めて学んでいたところがよかった。
- 「お助けマン」を活動させるなど、生徒が積極的に「学び合う」ための手立てが工夫されていた。
- ハンドノートの「ぐるっとハウス」を活用した授業だった。参観した教員が「身近にある教材だが、あまり活用できていない」教材を現場ですぐに活用するための大変参考になる授業提案だった。
- 2台のモニターやwebアプリを効果的に使い、教師の指示がわかりやすく、様々な工夫がなされた授業だった。
- 夏休みの課題の取組が、各自の課題意識を高めていた。

- 自分の考えを深める活動とその記録の取り方を、必要感や自分に合った方法で選択することができていた。
- 生徒に選択肢を与えることで、やらされている感覚をなくし、主体的に授業に取り組む姿勢を作ることができていた。
- ハンドノートのぐるっとハウスを活用したことがなかったので、とても参考になった。モデル家族を決めておくことで、全員が同じ土台で考えることができていた。
(講義)
- 氷見市社会福祉協議会の方の防災についての講義を受けたことで、「こんな授業をしたい」「こんなことを伝えたい」という思いが強くなった。専門的な話を聞いたことは授業力向上につながったと感じた。
- 講師を迎えての協議会は有意義であった。
- 講師が、事前にお渡ししていた学習指導要領や教科書の内容を理解した上でお話をしてくださった。話された内容を自分の授業に生かそうとする意欲が向上した。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

〔東部地区〕

- 講義では、中学生に多い消費者トラブルやSNSを用いた悪質商法を詳しく学ぶことができた。しかし、技術科の授業では取り上げることができるが、家庭科教育では扱うことが難しいのではないかという意見があった。
- 講義内容は、消費生活の授業に生かせる部分が少なかったため、もう少し家庭科の消費生活分野に近い内容のことを知りたかった。講師の先生との事前打ち合わせで、講義内容を検討する必要があるように感じた。
- 指導講師を招く際は、講師と内容について十分打ち合わせを行い、ねらいに沿う内容にすることが大切である。依頼した立場だからと言って遠慮せずに要望していくことが実りある研修につながると思う。
- 警察の方のお話は、広い範囲であった。2年に1度の授業発表は負担を減らすためにはよい試みであると思うが、その代わりになる研修のモチベーションは、もう少し内容を工夫した方がよいと思う。
- グループ協議では、年次にばらつきがある教員でグループ編成すると、より幅広い意見を聞くことができたのではないかと感じた。
- 消費生活と環境を扱う際の留意点や指導と評価の計画について具体的な指導があればよかった。
- 研究授業ではない年であっても、研究授業ほど準備のされたものでなくても、授業参観をもとに研修ができればよいと思う。

〔西部地区〕

- 今回の授業のように地域と連携した研修を大切にしていけるとよいと思った。
- 生徒の発言を価値付ける工夫が必要に感じた。
- 発達段階に応じて3年間の指導計画を立てなければ行けないと再認識した。
- 学習指導要領を確認し、題材設定を明確にすることで視点のズレを防ぐことが大切である。
- 共通点を見付けたりシールを貼ったりと作業内容が多いように感じたので、生徒の活動がシンプルにできたらいいと思った。
- 話し合い活動に使用したシールの貼り方に統一性があればよいと考えた。
- 生徒の考えを深めるための手立てをより効果的にするための工夫が必要だと思う。また、学習活動が多かったため、時間を短縮するための工夫やワークシートの工夫も必要だと感じた。
- 同じ目的でも地震への備えに使用される道具が複数種類あることや、家族の年齢によって必要な対策が変わることに視点を向けさせるための支援があればよいと感じた。
- 学習形態の選択の選択、お助けマンカード、班の話し合いでのシールについては効果的な面もあったが、活動内容の理解ができていない生徒がいたため、活動方法や活動の説明を工夫することで、より充実したものになると思う。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

- (1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)
- 1 ●授業会場が3つの部会に集中し、規模の大きい学校とはいえ、会場校への負担はかなりあったのではないかと感じた。
 - 今後、若い先生方が授業者になっていく中で、郡市ごとの積極的なサポートが必要である。
 - 3 ●3市合同(高岡・射水・氷見)で対面で指導案検討を行う機会が2回あった。その他はメールを利用して行った。メールでは指導案検討を十分に行うことができなかったため、対面で指導案検討を行う機会を増やした方がよいと考える。
 - 部会全体で2度、指導案検討を行ったが、もう少し時間をかけられたら、と感じた。とは言っても、実際は、校務や他の研修がある中で、中教研の授業研究にかけられる時間も少なく、3市の教員のタイミングを合わせるのも難しい。来年度から隔年になるので、長期的視点で授業づく

りをするなど、授業研究の仕方を工夫する必要がある。

- 授業者が郡市部長と兼ねていたため、大変そうだった。また、若い先生が多く、授業者が指導案を修正した後、部員に送付して改善案を求めても、なかなか返信が来なかった。各々の教員の経験が少なく、また、自分よりも授業経験が豊富な先生に対して、返信がしにくかったことが考えられる。しかし今後は、若い授業者の授業づくりを、同じように授業経験の浅い教員で支えていくことになる。今後の研究の在り方を考えていく必要がある。定年延長の先輩教員は心強い存在だった。
 - 資料の編集（指導案以外）や役員の分担の仕方等の引き継ぎをする必要がある。
- 4 ○ 資料については、以前は事前に会場校に役員が集合し、製本していたが、現在の「PDFを送付し、各自印刷する」の方が、運営する側の負担も少なくてよいと思う。また、東西交流の先生方にもメールで送付できるので、郵送費がかからない。
- 指導案の配布はメールで添付したが、印刷・製本の手間や出張が省くことができよかった。来年度もこの形でよい。
- 資料を郵送する際に、宛名書きで判断に迷い、自校の他部会の教員に聞いて対応した。

IV 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【東部地区】

- 1 ○ 受付開始が13:30だったので、余裕をもって向かうことができた。今後も、ゆとりをもって向かえる時刻だと安全に行くことができる。
- 費用（謝礼等）が少ないため、研究をするにも講師をお願いできる人が限られている。

【西部地区】

- 1 ● 運営してくださる先生方の負担が多かったように思う。役割を分担してスムーズに進行できればいいと感じた。
- 各郡市部長を通して、それぞれの郡市の先生方が協力してくださってよかった。事前に（4月の部長会の段階で）どんな役割があるか分かれば、よりスムーズに分担できのではと思った。
 - 会場校の別の教科でアドバイザー講義があったため、その時間に合わせることとなった。協議会②は70分間設定できたため、講師を招いて充実した研修になったが、協議会①は指導助言を含めて40分間だったため、物足りなく感じた。
- 2 ○ 研究授業は負担が大きいと思うが研修で得るものも大きいと感じた。
- 教員の人数に対して教室が狭く、同じ生徒の様子しか見られなかった。
- 4 ● 協議会が挙手制だったので発表しづらかった。グループ協議などがあると意見が交換しやすかったのではないかと。
- 付箋に書いて、板書の指導案に貼る形をとっていたが、他の人がどのような内容を書いているかわからなかった。ICTを活用できるのではないかと。
 - 研究協議1の時間が短いと感じた。研究授業の良かった点や改善点を協議する時間がもう少しあると、会員の授業改善や向上につながると思った。
- 5 ○ 福祉協議会のお話は興味深い内容だった。教育分野以外の方からのご講演もヒントになることが多いと思った。
- 題材が地域と切り離せないものだったので、地域の人材の活用方法も学びとなった。
 - 防災について、生徒が地域と結びつけて学んでいく方法について考えるきっかけとなった。
 - 地域の現状や地域の活動の情報は、授業に活かすことができる。このような講演は有り難い。

V 各研究部会独自の意見や要望

【東部地区】

- 初任の方からお若い方まで、頑張っておられて刺激になった。
- △ 次の研究大会の授業に向けて、研究推進委員と授業者、郡市部長の連携が密にできるような体制を整えたい。現状では、正規教員の人数が少ないこと、他郡市と研修の日程調整が難しいことなどが課題となっている。
- △ 実習や専門機関への出張等、専門的な知識を学ぶことができる研修ができるとありがたい。
- △ 拙い発表であったかと思いますが、指導案のご検討ありがとうございました。頂いたご意見をもとに再度、滑川市と中新川郡で集まり授業改善に役立てていきたいと思っております。

【西部地区】

- 家庭科教員は学校で一人しかおらず、また高岡市は若手教員が多いため、このような研修会や情報交換の機会があることはありがたい。
- 氷見市社会福祉協議会 開上氏の講話が、授業とリンクしやすい内容だったので聴けて大変勉強になった。こういった機会をいただけることがありがたかった。
- 東西交流という形で参加させていただきありがたかった。またこういった機会があれば参加したい。

- △今年度から高岡、氷見、射水の3市合同で研究を行っている。人数も少ないので、大会のまとめ等それぞれで出すのではなく、合同でまとめられたらありがたい。
- △東西隔年開催になると、各地区の負担が減り、よりじっくりと研究ができるようにはなるが、反面、引き継ぎが難しくなると思った。また、経験豊富な教員に頼りがちになるため、日程表や司会原稿、封筒宛名等、共通のフォーマットをつくるなど、運営の実態を形にして残すことが必要だと感じた。

<英語部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【研究授業】

- 新しく赴任したALTに伝えるという本時の課題の提示・導入が、自然で必要感があったため、生徒の学習意欲が高まった。
- 日頃から継続的に行っている「やり取り」の練習が功を奏し、自由に発言できる雰囲気の中で、キーワードのみのメモを基に発表原稿なしでスピーチを行うことができた。
- 目的や場面、状況を明確にし、情報を自分の考えや気持ちに結び付けながら伝え合う活動が行われ、授業改善の視点を確認できた。
- 普段から4人グループで授業を行うことで、生徒が自由に交流できる雰囲気ができていた。授業の75%を言語活動に位置付け、その中に何度も中間評価を入れ、教師だけでなく他の生徒からも学ぶことができていた。最初は2文しか言えなかった生徒も、4文以上言えるようになった。
- 生徒たちは、イマーシブリーダーによる音声読み上げ機能を用いて自分のペースで音読練習することができていた。

【研究協議】

- ワールドカフェ形式を採用したことで、少人数で自由な対話を行うことができた。メンバーを入れ替えて対話を続けることにより、多くの教員の意見や知識を得ることができた。
- 事前に「授業の視点に関連した生徒の取組や変容」と「自分が授業者なら、こうする」という2つの視点を与えたことで、自分事として授業を観察し、協議内容が深まった。

【授業力向上のためのアドバイザー講義】

- ライティングの評価について、その場で「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点から評価することを通して、生徒の「英語で表現したい」という思いを伸長させる評価とはどうあるべきなのか考えさせられた。
- 教科書を用いた「考える言語活動を意識した授業づくり」について、具体例をもとに教えていただいた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【研究授業】

- 中間評価をより効果的なものにするために、生徒数名に発表させた後、「よい点」だけでなく「さらに言いたいこと」や「言いたいけれど、言い方が分からないこと」等を挙げさせて、全体で共有するとよい。
- 中間評価の際、発表の「よい点」や他の生徒の「参考になる表現」、「間違いやすい表現」等について板書すると、より意識できるようになる。
- 本時の目標や流れ、指示等はスライドでは残らないので、板書すればよい。
- 中間評価の視点を具体的に設定することで、生徒が「どこを改善する必要があるか」自分で分かるので、単元のゴールやそれに伴う評価の視点を生徒に明示することが重要。

III 大会の諸準備、諸会合について

- (1 会場都市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)
- 1 △学校の規模や教員数をもとにローテーションを決めているが、異動等による状況の変化に配慮する必要がある。
 - 4 ○紙ベースの資料製本と配付を止め、2次元コード等によるデータ配付のみの対応が望ましい。

IV 研究大会当日の運営や内容について

- (1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)
- 1 ●会場校の生徒が駐車場の整理に当たっていたが、事故に遭う危険性があるので教員で行う。人員不足なのであれば立て看板を用いるか、データで地図を送信する。
 - 2 ●公開授業が1会場だと、部員数の関係から体育館等、普段とは違う環境となることは、生徒にとってはよいことではない。
 - 2つの学年で提案授業があれば、学びに繋がる。
 - もう少しベテランの授業も見てみたい。若手の育成にも繋がる。

- 4○小グループに分かれ2つの視点から研究授業について協議した。今回は、端末で表計算ソフトを共同編集できるようにし、各グループの記録者がそれぞれの意見を入力した。授業力向上のための講演の時間の関係で、協議会の意見を共有する時間を確保することはできなかったのも、後日そのデータを会員に送信し、協議内容をいつでも見られるようにした。
- 自評→グループ討議→シェア→指導助言という従来の流れだと、時間が足りないと感じた。約50名が参加するため、端末を活用した意見共有を取り入れるなど、協議の持ち方を検討する必要がある。

V 各研究部会独自の意見や要望 特になし

<道徳部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[東部地区]

- 「考え議論する道徳」の授業について話し合ったり、講演を聞けたりしてよかった。
- 指導主事やアドバイザーの話を聞くことで、たくさんの学びにつながった。
- アドバイザーの講演が大変勉強になった。「議論させる」のは道徳だけでなく、教科指導や特別活動等、様々な場面で行っているのだから、指導のヒントをいただけた。
- ICTの活用がされていた。自分でもできそうだと思うものがあって取り入れていきたい。
- 2年生の授業では、議論を深めるためにペア学習を複数回取り入れていた。
- 授業での問い返し方がよかった。「考え議論する道徳」の方向性とも一致していた。

[西部地区]

- 中心発問の他に基本発問や補助発問の仕方など自分の授業でも取り入れていきたいと思った。
- 柴原先生の講演がとてもよかった。発問の工夫という今年の課題にもフィットしていた。
- 切り返しの質問の仕方を学んだことが役に立ったと思う。
- グループで協議することで一人一人が主体的に学ぶことができ、意見を言うことができよかった。
- 議論を効果的に進めるためにはどのようにすればよいか学ぶことができた。
- 研究実践のために具体的に示していただいたりレー道徳を実践してみようと思った。
- 柴原先生の講義では、資料をたくさん用意していただき、どのような発問をすることが効果的に示していただいたことが分かりやすかった。また、指導と評価の一体化についても詳しく知ることができた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[東部地区]

- 発問の工夫という観点において、補助発問を事前に考えておく必要があることを改めて感じた。
- 「考え議論する道徳」を目指した発問を考えたり、工夫したりする必要がある。
- 生徒との会話を増やし、1つのことを深掘りするとよい。
- 他郡市との連携、情報共有の在り方。
- 時間が長い。省略できるところは省略してほしい。
- 講義が理論的で難しかった。現場でどのように生かしたらよいのか。
- アドバイザーの講演を充実させてほしい。

[西部地区]

- 参観する授業の指導案検討に参加できるとありがたいです。
- 何について協議するのか決めておく方がよい。
- 中心発問→補助発問のつなぎ方
- 部会協議は時間が短く、十分な議論ができなかった。他の持ち方がないか考えていくと良い。
- 協議会の時間において、グループ内協議の時間が10分程度とられていたが、まだ話し足りないところもあり、協議の時間がもっと長くても良かったと感じた。
- 資料をなぞる学習展開になっており、教師と生徒のやり取りはあったが、生徒同士が議論するような場面は見られなかった。「考え、議論する道徳」への転換する視点が必要ではないか。

III 大会の諸準備、諸会合について

(1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)

[東部地区]

- 1 ●会場校は集まりやすい学校が望ましい。
- 3 ●幹事による前日準備は不要だったのではないかな。

[西部地区]

- 2 ●8月に行われた事前研究会において、指導案検討の設定がなかった。授業者が参加しているのに指導案の検討がないのでは、せっかく参加された授業者に申し訳ないので、指導案の検討、あるいは

は説明する時間を設定するべきではないか。

IV 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【東部地区】

- 1 ● 研究授業と協議が駆け足気味だったので、もう少し時間をとってよいいのではないか。
- 4 ● 部会協議①が少し短いと感じた。
- 5 ● 講義タイトルの「発問の工夫」についても、詳しく聞きたかった。当日の授業内容に関するだけでなく、いくつかのテーマにおける発問の具体例を聞きたかった。

【西部地区】

- 2 ○ 3つの学年で研究授業をしてよかった。
 - せっかくの機会なので各校代表1名のみではなく希望者も参加することは可能でしょうか。
- 4 ● 協議時間を増やしてほしい。
 - 小グループでの話し合いは、参加者全員が話し合いに参加する手立てとして有効ではあるが、小グループからの発表で終わってしまい、せっかく明らかになった視点や問題点の協議がなされないまま終わってしまう。全体での協議も必要ではないか。

V 各研究部会独自の意見や要望

【東部地区】

- これまで、少人数での授業を見る機会がなかった。榆原中での授業を見させてもらい、大変勉強になった。
- 8人しかない教室は衝撃的であったが、自由に意見が言えてそれを受け入れあう温かい雰囲気があった。日頃から意識されているのだろうと思った。
- 自分自身の道徳の授業に生かしていきたいと思った。アドバイザーの講義では、生徒が考えるためのポイントについて、たくさん学ぶことができた。
- 発問の内容やタイミング、言い方ひとつで生徒の考える幅や深まりが大きく変わることが分かった。生徒の発言に対する切り返しで、生徒の考えをつなげられるように学んでいきたい。生徒が「考えたい」、「どうしてだろう」と思える発問をイメージして授業に臨めるようにしたい。
- ICTの活用について、今回の授業で効果的な使い方を考えたり、他の先生と議論したりと有意義な時間となった。
- 素晴らしい授業を見せていただいた。
- 少人数で議論を深めるのは難しいと感じた。
- 遠くから参観に来る先生もいるので、片付け等を含めて16時35分には終わってもらいたかった。
- △ 会員の道徳授業の実践報告会があるとよい。題材名・発問・生徒の反応・板書の写真を簡単にまとめたA4用紙1枚程度の資料を持ち寄って共有したり、意見交換したりすると有意義な研修の場になるのではないか。

【西部地区】

- 柴原先生のパワーポイントの資料がほしい。
- 声の大きさが聞き取りにくいところがあった。マイクの大きさ、環境に合わせた配慮が必要だ。

<特別活動部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- 日頃の積み重ねが見えた。(担任と生徒との人間関係やクラスの雰囲気、掲示物等)
- 話し合いの仕方、スキルが身に付いていた。
- ICTを用いることで、話し合い活動を可視化することができた。
- PDCAサイクルを意識した展開になっていた。
- 「振り返り」を繰り返すことで自分事としてとらえて考えていた。
- 話し合い活動が生徒たちで展開されていた。
- KJ法を使って、話し合いを進めることができた。
- 司会者進行シートがあり、進行がスムーズであった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 特別活動は、実際にやってみることが大事。
- 少数派の意見の生かし方。多数決にたよらない合意形成の方法。
- ワークシートの活用や工夫。
- 終末のまとめ方の工夫。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

- (1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)
2 ●指導主事と連絡を取り、助言してもらえばよかった。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

- (1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)
1 ●会場校のサポートがあり、運営委員の役割が少なかった。運営委員の数を厳選するとよい。
2 ○各学年からの提案授業があったので、参観人数も分散されてよかった。
○参観するグループが決まっていたのがよかった。
●指導致案と共に、ワークシートもあるとよい。
4 ○協議の時間が勉強になった。いろいろな考え方を知る機会になった。
●研究協議Ⅰの時間がもっとあるとよかった。グループワークの深まりと指導主事の講話を考えると、あと20分はほしい。アドバイザーの講演との兼ね合いが難しい。
●グループ協議の分担をあらかじめ決めておく。
△授業者へ質問できる時間の設定があるとよい。
5 △東西の両方が、講義を聞くことができるとよい。

Ⅴ 各研究部会独自の意見や要望

- 特別活動部員が毎年入れ替わるので継続した研修が難しい。
△特別活動部会は、小学校との合同研修会ができないか。小学校で習得している話合いのスキル等を継続していけるのではないか。
△各学校で、特別活動部員が研修内容等を紹介する機会があるとよい。

<特別支援教育部会>

Ⅰ 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【東部地区】

- 授業動画視聴で、生徒の後だけでなく、横からも撮影されており、表情を読み取ることができた。
また、講演者が医療系の方で、学校外の専門家からの情報を得ることができた。
○短時間の中で、研修形態や内容が凝縮されていたように感じた。次回も時間をかけるところ、かけないところのメリハリをつけた流れがよいと思う。

【西部地区】

- ロールプレイの例が学校生活・日常生活にそった内容であり、有用感が感じられた。(自)
○カードやボールなどのアイテムの利用が徐々に生徒の緊張をほぐし、ねらいとした自己表現に向かわせるのに効果があった。(自)
○視覚に訴える資料が用いられることで、生徒が表情の裏にある気持ちを類推しやすくしてあった。(自)
○生徒の状況に合わせて、声掛け等で心の負担を軽減するような柔軟な対応を行った。(自)
○気持ちカードを使って意思表示するよう促しており、普段どのような工夫をされているかが分かる授業だった。(知)
○参観用オンラインの音声や映像がよく、内容を把握しやすかった。
○知障級、自・情級ともに授業が行われ、2つの部会で研究協議が行うことができた。
○部会協議②で、指導のあり方だけでなく、それに関連付けて日頃の悩みや解決方法についても共有できた。
○協議会において、模造紙等を使わないやり方がよかった。全体へのシェアリングがあったので内容を伝え合うことができたし、話合いに集中することもでき、準備の負担も少なかった。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【東部地区】

- 録画の授業であっても静かにじっくり見たい。授業者の解説は自評のときだけでもよいのではないか。
△参加が難しい先生方に向け、講演だけでもリモートやオンデマンドにしてもよいのではないか。
△外付けマイク等を使って授業動画視聴での音声、音質が向上するとよい。

【西部地区】

- 写真提示の前に、ヒントとなる動画があればよかったのではないか。生徒同士のロールプレイがあればさらによかった。(自)
●気持ちを表すキーワード提示や選択肢を与えるなどの工夫があれば、相手の気持ちを考えやすくなったと思う。(自)
●生徒が萎縮し、指導致案をもとにした授業ができなかったため、授業の視点に基づいた協議を行え

なかった。リモートだけでなく事前録画も検討する必要がある。(知)

- 特別支援学級においては、安心して授業を受けられる環境を十分に整えることが大切。
- 音声がまだ聞き取りづらく、想像で補う部分があった。
- 途中で目標を変えられたため、その目標に対する評価が必要だった。
- 生徒が少しでも成長した時には、見逃さずにプラスの声掛けを行うことが必要ではないか。
- 机の下で手を挙げていたが、キャッチされなかった。机をなくして立った活動でもよかったのではないか。

△特別支援学級の生徒は参観者がいたり、普段の状況と違っていたりすると、緊張したり強いストレスを感じたりするので、事前に録画した学習・活動の様子を見ながら協議を進めるのもよい。

△社会参加を推進する指導についていろいろな実践例を紹介していただくとより学びになる。

△特支を担当している教員のほとんどが、特別支援教育についての専門の研修を受けた経験がない。このような機会にぜひアドバイザーからの専門的なご指導をいただくとありがたい。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

(1 会場都市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)

【東部地区】

4 △9月頃に途中の段階でもよいので指導案を郡市部に頂けると、地区の研修会等に役立てられる。

【西部地区】

4 ○メールによる資料の送信、各校で印刷してもらう方法がよい。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【東部地区】

2 ○授業の録画を視聴するというスタイルが定番となっているが、授業者の先生が適宜解説を入れてくれたことで、単調にならず、いろいろと気付きがあるものとなっていると思う。

4 ●研究協議の班別協議の時間だが、協議を深めるためにもう少し増やしてほしい。

【西部地区】

1 ○会場校の先生が準備していただき、とても温かい雰囲気でもて迎えてくださり、安心して研修に臨むことができた。

2 ○知的障害学級と自閉症・情緒障害学級にわかれて授業を受けることができたのは、自分の担当の授業と近い授業となったので良かった。(知)

○カメラが2台あり、違う角度から同時に見ることができたのはよかった。(知)

●少人数の生徒だからこそ緊張し、本来の姿が見えなくなってしまうことがある。次回からはビデオとして事前に撮ったものを協議会場で視聴し、意見を出し合えばよい。(知)

●生徒が写真を見て相手の気持ちを想像する活動では、写真の表情だけでは感情理解が難しかった。自情級の生徒は自分の気持ちも理解することが苦手であることから、感情の種類を選択させてもよかった。(自)

●ロールプレイでは、先生と生徒とのやりとりだったが、生徒同士のやりとりにすることでより主体的に取り組めたのではないか。(自)

●返答の仕方の悪い例と良い例を提示して振り分け、ICTを使ってほかの生徒と共有することで新たな気づきに出合うことができるのではと思った。(自)

●リモートでの参観だと、様子や板書等マイクの調子などもあって、臨場感が感じられない。

●1つの学校から教員が2名参加したが、2名とも知障級の授業に振り分けられていた。1つの学校から教員が2名以上参加する場合、知障級と自情級に分けるのが望ましい。

4 ○研究大会は市以上に多くの先生と話す機会があり、協議では大変参考になる意見が多く、勉強になった。

○協議会の後半のグループ協議では、活発な意見が出されよかった。日頃の取組や悩みについて互いに聞き合うことができた。可能であれば、全体で情報を共有できればよかった。

●班での自由協議だったが、何かテーマがあると話しやすかった。

Ⅴ 各研究部会独自の意見や要望

【東部地区】

△各校1名を続けてほしい。特別支援の部会に参加した場合、教科部会の参加を無しにしてほしい。

△支援級でも、教科書を使える授業を教えてほしい。

【西部地区】

△今年度初めて、通級なり特別支援級の担当になった先生で、教科部会に所属している先生が複数いる。教科で役職を担っている方もいるため、新特担は、特別支援教育部会に所属することが合理的であると思われる。

△会場校での授業提案の他にも、参加者が自校で取り組んだ授業の指導案を持ち寄って交換し合い、

学び合う場面があってもよいのではいか。

△駐車する場所が資料に明記されていたのに守られておらず、(指導主事の先生方の駐車スペースを確保するため)会場校にご迷惑をおかけした。次年度は徹底されるよう、各市で連絡をお願いしたい。

<保健部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【提案発表】

- 三者懇談会前という適時と考えたもの、現状を把握しての目標を立てるねらい、科学的根拠の提示や個別指導へのつながり、地域学校保健委員会の運営等、とても参考となった。取り入れられそうなところから実施してみたい。
- 自宅ではなかなか時間を取ることもできないと思うので、懇談会で待ち時間等を利用し、保護者を交えての目標設定は、隙間時間を使うという視点からも有効だと感じた。
- メディア利用は家庭や個人の課題だと考えがちであったが、生徒同士の関わりからの利用も大きな課題であり、グループでの目標を考えることが生徒に気付きを与える切り口になることを学ぶことができた。
- 講演会などで学んだ言葉を再確認するクロスワードはよく考えられたと思う。生徒も楽しく学ぶことができる。個別指導につなげたところも参考にしたい。
- 多職種連携をしっかりとるために、校区の小学校と合同の地域学校保健委員会を実施されて、立ち上げるのは大変だったと思うが、これをきっかけに、今後も連携の仕方を工夫し、いろいろな取組ができるとよい。
- 地域学校保健委員会については、「子供が幼少期の頃から将来の健康課題を見据えた子育てをしてほしい」というメッセージを保護者の方に発信できる貴重な機会として、多職種との連携がしっかりと図られている点がすばらしい取組であり、参考になった。
- 養護教諭だけが行う健康教育でなく、学校職員や地域を巻き込んで子供の健康課題の解決に取り組んでおり、その中での養護教諭の在り方が参考になった。
- 「地域学校保健委員会」は、幼保小中と、地域全体も含め、系統的に保健教育をスパイラルに積み重ねていくためにも、同じ目標をもち、同じ方法で取り組むことができ、とても効果的だと感じました。まずは、小中から連携を取って合同でやってみたい。

【協議会】

- グループ協議はなかったが、事前のワークシートや、それを元にした質疑応答等で、詳しく話が聞けて良かったと思う。また、グループ協議のための移動等もなく、落ち着いて発表を聞くことができた。あえてグループ協議をする必要はない。

【授業力向上のためのアドバイザー講義】

- 授業力向上のためのアドバイザー講義の時間が60分から100分と十分に設けられており、貴重な講演をじっくりと聞いたのでよかった。養護教諭の視点をもちながら客観的に養護教諭である自分たちが気づけなかった点について教えていただいた。養護教諭という職について使命感をもつことができ、元気が出るとてもいいお話だった。
- 保健室という空間がもつ独自性についての話をされたとき、日々、執務に追われている多忙感に納得させられた。養護教諭は、多くの子どもを見ているからこそ、研ぎ澄まされた感性があるという言葉にも感動した。これからは、養護教諭独自の気付きを大切にしながら、校内外の方々ともますます連携を深めていきたいと改めて思った。
- 「VUCA(予測困難)の時代」について詳しく教えていただき、これからの学校は本当に難しい対応を迫られるなど強く思った。適切な意思決定や行動選択を行い、心身共に健康的な生活習慣を継続することがVUCAの時代を乗り切れるスキルになるのではと思った。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【提案発表】

- 家族と考えて取り組むのは、とても必要なことだけれど、家族・地域全体でと考えるなら、生徒の目標だけでなく親や兄弟等もそれぞれの目標も定め、一緒に取り組む内容の方がいいのでは感じた。子供は制限しているのに、親は使い放題というのはあまり効果がないように思う。
- 提案発表の成果の中では「効果があった」「成果がみられた」「意識が高まった」とあるが、研究としてはある程度、それらを立証する内容も必要ではないかと思った。
- 健康教育は、すぐには効果が現れにくいとは思いますが、取り組み前～取り組み後のゲンキッズ等の調査の経年変化を見てみたかった。
- 具体的な取り組んだこと→成果もあるが、そこに至る過程に着目して事実を整理したり、資源(リソース)を整理したりすることも大事だと思う。
- 生徒の意識を高める方法はよく理解できたが、行動変容につなげ継続していくための指導の工夫

が必要であると思った。

- メディアに関しては家庭での協力が欠かせないが、それが難しい家庭も多い。そのような生徒・家庭にどのように働きかけていくかがこれからの課題だと感じた。
- もっと知りたい、考えたいと思えるような課題設定の在り方を追究する必要がある。
- 系統的・発展的な指導とは何か。カリキュラム・マネジメントシートで明確にする、発達の段階に応じた具体的な目指す姿を明らかにする、評価の方法や基準を検討するなど改善の余地がある。
- PDCAサイクルは「状況や前提が変わらない中で、品質管理や生産管理用として最適解を見つけていくのに適するフレームワーク」と聞き、鎌塚先生のお話にもあった「VUCA」も取り入れるなど、変化する時代に合っているのか検討が必要である。
- ねらいは何か、具体的に生徒のどのような姿を目指すのかを明確にした上で、実践することが大切だと感じた。限られた時間の中で、中学生の時期に必要な指導を考えていきたい。どのような変容が見られたのか、評価をして次につなげていきたい。
- グループに参加できない生徒やよりメディア依存の高い生徒については、学年や保護者と連携した個別の指導ができる体制が必要であると感じた。

【協議会】

△グループ協議をしないのであれば、ZOOM等での開催も検討していければよいと感じた。

【授業力向上のためのアドバイザー講義】

- 鎌塚先生のお話をしっかりと聞き取ることが難しかった。(声が小さい・早口・マイクの感度)ととても残念だった。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

(1 会場郡市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)

- 1 ●今までは、会場確保を富山市の会員が手続きを行っていた。今年度は、県中教研として利用したため会場費が発生した。今後は事務局で会場の確保をしてもらおう。
- 3 ○今後のリモート研修変更に向け、県養護教諭会のオンデマンド研修会に参加し運営の仕方を学んだ。
△提案発表資料の検討会において、どこまで検討すればよいのか困った。
- 4 ○資料のPDFが全て一つにまとまっており間違わずに一度で印刷ができてよかった。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

- 1 ○昨年までと違い、大会運営がシンプルでよかった。そのため、座席指定席図・進行・部会協議のグループ分けやグループ司会の計画書など様々な仕事が減った。
○スムーズで落ち着いた研修会だった。
△全体会場が椅子のみの準備だったため、短時間で整った。役員だけでもよかった。集合時刻がもう少し遅くてもよかったかもしれない。
△アドバイザー事業の時に休憩時間があればよかった。
- 3 ●アドバイザー講義はたくさんのお話を聞くことができてよかったと思うが、提案発表に対してワークシートによる感想だけでよかったのか。
- 4 ○指導主事の先生の指導助言がとても詳しくわかりやすかった。
○情報交換がそれぞれの悩み相談になって本題から反れることも多かったように思う。今回、グループ協議はなく全体での協議のみだったが、移動時間等もなく、ゆとりが感じられて良かった。
○協議会はなくとも質疑があり、内容をより詳しく聞くことができてよかった。
- 5 ○鎌塚先生のご講義は、養護教諭としての経験、現在の教授職や執筆活動の立場等、経験や知識を聞け、学びが深まった。長時間だったが時間の経過が早く話の内容が未来志向でとてもよかった。
●マイクの音が悪いのか、アドバイザー事業の声が聞き取りにくかった。
●スクリーンのしわが多く写りが悪く見えにくかった。
△前列の席が空いていたので欠席者分は早めになくしておけばよいと思う。

Ⅴ 各研究部会独自の意見や要望

- 研究実践のまとめ方を教えてもらいたい。
- △オンライン化してほしい。